

認定NPO法人ぐる-ぶ藤

第18回(通算第30回)通常総会議案書

日 時 : 2022年5月28日(土)

10:00~12:00

場 所 : 藤沢商工会館ミナパーク

総 会 次 第

1. 開 会

2. 理事長挨拶

3. 来賓挨拶

4. 議長選出

5. 資格審査

6. 議事審議

第 1 号議案 事業報告

第 2 号議案 決算報告および監査報告

第 3 号議案 役員改選

7. 報告

事業計画および事業予算

8. 永年勤続表彰

9. 閉 会

はじめに

来るべき高齢化社会に備え、自分らしく暮らせる仕組みを作りたいと5人の仲間が立ち上げた組織は、藤沢の地にこだわって活動し、お陰様で多くの方々のご支援をいただき30周年を迎えました。

昨今、テレビから伝えられるニュースは、世界情勢不安や、物価の上昇、未だ終息が見えない新型コロナ感染症など様々です。感染症対策のため外出する機会が減り、体力、気力の低下や表現しがたい不安感や孤立感を感じると話される方が多くいらっしゃるのが現状です。

このような社会の背景がある中でぐるーぷ藤は、孤立感を少しでも和らげることのできる仕組みを地域に作り、住みやすい街づくりの一端を担えればと活動していきます。身近な相談場所として地域ささえあいセンター「ヨロシク♪まるだい」、居住支援「住まいる藤」など、「困ったときはお互いさま」の心意気を実践するために様々な分野と連携を図り、法令を遵守し知恵と柔軟な発想のもと、オリジナリティーあふれるサービスを行います。固定観念に縛られると前に進めないことを私たちは経験の中で知っています。応援する側、される側、いつでもどちらにも回れる仕組みや、働きやすい環境作りに努めてまいります。

今年度はいよいよ三番館の建設に着手します。認知症対応型グループホーム、障がい者グループホーム、多世代が交流できる場の建設を予定しています。安心、安全で快適な場となるような街づくりを、一番館、二番館同様に取り組み、様々なニーズに対応するためにさらなるスキルアップのため研修を行い準備を進めてまいります。

第1号議案

2021年度事業報告

1. 組織運営

今年度も新型コロナウイルス感染症が収束せず、高齢者等を支援する施設として前年度同様各部門が感染対策に万全を期すよう努力した年となりました。どんぐり園をはじめ、学童保育・中学校などとの地域交流や世代間交流は中止となりました。

今年度はぐる一ぶ藤が発足して30周年を迎え、記念式典を開催しました。30年の歴史の重みと、これからのぐる一ぶ藤を担うことの大切さを再確認することができました。

運営面で、会長は市民福祉団体全国協議会や民間介護事業推進委員会の会議に出席する等対外的な活動を担い、理事長は法人内を取りまとめ、会長と理事長が共に運営に当たりました。

ぐる一ぶ藤では、ホームヘルプを対人援助の基本と捉え、各部門のスタッフが在宅支援を経験することを方針として掲げています。非常事態の中でも必要とされるご利用者を支援し今年度も多くのスタッフが部門を超えて活躍しました。

サービス付き高齢者向け住宅「ぐる一ぶ藤二番館・柄沢」は、コロナ禍で様々な制限がありましたが、ご入居者の心身の健康を保つため、二番館の各部門が連携を取り合い一丸となって支えることができました。

居住支援法人「住まいる・藤」は、藤沢市の居住支援法人の中でも中心的な活動をしており、数多くの相談がありました。

「介護プロフェッショナル・キャリア段位制度」のレベル認定に対応した「根拠ある介護」に基づいた研修を受けたアセッサーの会員が中心となり、スキルアップ研修の講師を担当しました。キャリア段位制度を活用した、サービスの質の向上やモチベーションアップにつながる人材育成を行いました。

運営については、年4回の理事会で予算をはじめ事業運営に関する重要事項の検討を行いました。役員及び各事業部門の代表で構成された部門代表会議を月1回開催し、理事会での決議を踏まえて各事業に関する諸事項の討議を行いました。全会員に対する月1回の運営報告会は、Zoom報告会を継続し、運営状況の報告を行い情報の共有を図りました。部門の枠をこえた委員会活動やプロジェクトは、さまざまな形で会員が運営に参加する機会となりました。

ふじさわ福祉NPO法人連絡会が立ち上げたフードバンクふじさわの事務局を担い、生活に困窮する方々への支援を行いました。

三番館建設に向けて委員会を立ち上げ準備を行ってきました。8月には認知

症グループホームの選定を受けることができ、2023年度の開所に向けて大きく動き出しました。

2. 事業・活動部門

2-1 訪問介護事業（ぐるーぷ藤ホームヘルプ）

ご利用者に寄り添いその方らしく暮らしていただくため、心のこもったホームヘルプサービスで在宅生活を支えました。

長引くコロナ禍の影響もあり、様々な面でストレスを抱えているご利用者が多くみられ、その思いを傾聴し寄り添うよう努めました。ご利用者の体調の変化や生活の中の細かな気づきを大切に、ヘルパーとサービス提供責任者が連携を取り、ケアマネジャーへ繋げていくよう心がけました。また、ご利用者やヘルパーの周囲でコロナ感染者や濃厚接触者が発生した際には、急な依頼や変更が増え、その対応に尽力しました。

重度障がいの息子さんがご自宅で高齢の両親の介護をされている事例では、両親を心配する息子さんの思いと3人で在宅生活を続ける不安が少しでも和らぐよう、ケアマネジャーと密に連絡を取り、そのプランのもと頻回に訪問し、今の生活を維持していけるようケアをしました。

「ほんの少しのお手伝いがあれば今の生活を続けられる」「自分で出来なくなるまでは今のまま頑張っていきたい」と感じているご利用者は多く、介護保険や障がい者総合支援事業だけでは対応できないケアなどを、自立した生活を送っていただく手助けとして本来事業をプラスしてご利用いただいた方もいました。

今年度のヘルパー全体の会議は、昨年引き続き書面開催となりましたが、ご利用者ごとやサービス内容で分けた少人数でのケース会議を毎月行いました。毎回、活発な意見が出て、ひとりで訪問するヘルパーならではの悩みや心配、介護方法などを共有する良い機会を持ってました。

2-2 通所介護事業（アクアデイ菜の花）

看護師が当日の健康状態を確認し、会話の中から日々の身体状況の確認を行い申し送り等スタッフ間で連携し新型コロナウイルス感染症予防対策の徹底を図りながら、機能訓練、レクリエーション、リラクゼーション等サービスの提供を行いました。

運動特化型デイサービスとして日常生活動作の改善に着目しプールでの浮力を生かした水中運動、関節や筋肉の可動域を広げるプレミアムジム、体幹を強くする上肢下肢の運動等のプログラムを提供しました。毎月一回体力測定を行い身体状況を確認し看護師とスタッフで連携をはかりプログラムを見直し、その方に合ったプログラムを提供しました。普段杖を使用して歩かれる方も水中歩

行では歩幅が広く保たれ、ふらつくことなく歩けるようになり、立ち上り動作や立位姿勢、移動動作も改善されスムーズに行えるようになりました。ご利用者の方々から多くの笑顔が見られるようになり自然と会話が増え口腔機能の改善にも繋がりました。

レクリエーションでは、フラダンス、和太鼓等趣味活動を推進し認知機能の改善をめざしたふまねっと運動、東京パラリンピックで話題になったボッチャも取り入れ大変な盛り上がりを見せ、楽しさと明るい雰囲気が見られました。その他にリラクゼーションとしてセルフアロママッサージやリンパマッサージ、季節感を表した作品作りを行い、ご利用者から喜びの言葉をいただきスタッフが頑張った成果だと思っています。

国土館大学体育学部教授須藤明治先生の指導のもと水中運動の安全性を伝え、超音波流水プールの情報を発信し少しずつ浸透し始めました。運動の内容が充実しました。また、各スタッフの接遇マナーが向上しました。

2-3 居宅介護支援（ぐるーぷ藤ケアマネジメント）

高齢化により心身機能の低下が進む中、自宅での転倒で入院、手術を行ったケースが数件ありました。入院中に医療機関のソーシャルワーカーと連絡をとり合い、リハビリ病院の転院先をはじめ退院後の住環境の整備や在宅生活に必要なサービスの提案と調整を迅速に行いました。退院後も医療依存度が高くご家族の介護が困難なケースでは看護小規模多機能型居宅介護への移行を提案しました。利用されてからは自宅で安心して生活ができたと喜んでいただきました。

サービス付き高齢者向け住宅入居のご利用者には新規サービスの提案や利用調整等を行い、新たなご入居者で介護サービスを希望された方には介護保険の内容説明や申請代行等の支援を行いました。入居されたばかりで環境の変化に不安を抱えた方や入居時よりも機能が低下して、正確な服薬が行われず状態が悪化されたご利用者には、緊急時の対応や食事・入浴・服薬等日常生活全般で援助が柔軟にできる併設の小規模多機能型居介護を提案しご利用いただきました。入居のご利用者にはコンシェルジュをはじめ同一敷地内の小規模多機能型居宅介護サービス・デイサービス・レストランとの情報共有と協力のもとで、ご利用者のご家族の意向に添った支援を行うことができました。

コロナ新型株による感染拡大の影響で外部研修の参加に制限がありましたが、地域防災会議や施設見学その他、紙面やオンライン研修にも積極的に参加しました。内部研修では本年度ケアプラン点検事業の対象となり、結果資料に基づき自身の担当するケアプランの見直しと点検を改めて行いました。研修で学んだ事の気付きや振り返りをミーティングの場で意見交換し共有する事でケアマネ間の連携を図ることができました。

2-4 小規模多機能型居宅介護（ぐるーぷ藤 藤の花）

在宅生活を基本に「通い・泊まり・訪問」を組み合わせたサービスでご利用者とご家族が安心して過ごせるように支援しました。ご利用者の個性を大切に自分らしく過ごせる環境作りと一人ひとりの意向を尊重した対応を行いました。スタッフがご利用者に寄り添い「笑い・喜び・望み」ある生活の継続に努めました。

今年度も新型コロナウイルス感染対策を講じながら少人数の外出、個別のカルチャー、外気浴&園芸活動等を行いました。パーティー越しのコミュニケーションは聴力の衰えたご利用者にとって困難な面もありましたが、スタッフは孤立感を感じないような工夫と対応に努めました。コロナ下での運動不足解消には週2回のフラダンス教室、アクア棟全体を利用したオリエンテーリング、オリンピックはご利用者とスタッフが大きな拍手で応援しました。

8月にスタッフ1名が新型コロナウイルス陽性になりましたが、感染拡大期のため医療によるPCR検査が受けられず、スタッフが奔走して濃厚接触者となったご利用者の検体を回収しました。法人の感染マニュアルに基づいた冷静な対応と保健所、神奈川県との協力のもと感染を広めることなく収束することが出来ました。

看護師の配置時間が増えたことにより医療と連携しながら癌末期のご利用者の看取りケアが出来ました。ご家族が高齢で持病があるため自宅で終末を過ごすことが難しく、「通い」と「泊まり」を利用しながら最期は宿泊室でご家族と看護師、スタッフに見守られながら穏やかに旅立たれました。

同一敷地内のサービス付き高齢者向け住宅のご利用者の日常生活支援から細かな相談までいつでも受け入れられる体制を整え、認知症や鬱を発症されている方の不安な気持ちに寄り添い安心して暮らせるよう声をかけ見守りました。

地域の方々との交流は、恒例のハロウィンのイベントに子どもたち延べ100人以上が訪れ、節分には近隣の幼児教室の子供たちが外から豆を撒いてくれました。「こども110番」の駆け込む場所として地域の子どもの身近な場所になりました。

2-5 看護小規模多機能型居宅介護（ぐるーぷ藤 しがらきの湯）

今年度もご利用者、スタッフ共に基本的な手洗い、マスクの着用、ソーシャルディスタンス、換気の徹底など新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら支援を行って来ました。

「通い」「泊まり」「訪問介護」「訪問看護」を軸に医療依存度の高い方、退院直後からの日常生活を安心して継続できるようにケアプランを組み立てました。癌末期の看取りケアや長期に渡って医療的ケアが必要になっている方に、主治

医はじめ薬剤師、PTなど多職種と連携を密にし包括的に対応しました。独居、認知症で体調を崩しライフラインが止まってしまった方が発見され、地域包括支援センターの依頼で直ぐにショートステイを決め利用を始める迅速な対応を行いました。ご利用者やご家族の思い、健康状態に応じて泊まり、訪問のプランを増やすなど身体的、精神的サポートに努めました。

通いサービスは外出の機会が少なくなりボランティアの受け入れも一時中止せざるを得なくなりましたが、車いすでも行える器具を新たに購入し人数を考慮しながら個別機能訓練計画を取り入れた生活リハビリを中心に、QOLを低下させないよう努力しました。高齢で難聴の方が多い中、マスクを着用しパーティーション越しでのコミュニケーションは難しいものがありましたが、スタッフが配慮しスムーズに行えるようにしました。

自治会行事の中止や幼稚園の子供たちとの交流が困難で地域社会との繋がりを持つことの難しさを模索した一年でもありましたが、厨房の協力で季節に合わせた食事や誕生会のケーキなどで日常に彩りを加えることができました。徐々にスタッフボランティアが活動できる機会を作るようにクリスマスコンサートを開いたり歩行訓練を兼ね花を見る時間を持ち、ご利用者が笑顔になっていく様子はスタッフにとっても嬉しいことでした。

研修はZoomや書面開催されることが多くなりましたが、積極的に参加し介護スキルの向上を図り医療知識も深めていきました。

2-6 障がい者グループホーム（藤が岡の家・本藤沢の家）

20代から60代の精神・知的障がいのある方たちが、緩やかな家族のように暮らすグループホームでは、安心して社会性のある毎日が過ごせるよう支援をしました。仕事・健康・家事等生活の中で困った時に、なじみのスタッフや他部門のスタッフ、関係各機関の方たちと連携しながら支援を行う事で、その方らしい生活が続けられるよう手助けしました。

コロナ感染が広がる中、情報を取り入れてそれを正確に理解する事が難しい障がいのある方達にマスク、手洗い、外出自粛等を理解していただき一人も感染者を出さずに過ごすことが出来ました。予防接種の予約を行う事や、注射が怖くて一人では接種が出来ない方に付き添い、感染予防とともに心身の健康を維持する事に配慮しつつ個別に対応しました。

◆ 藤が岡の家

複合施設の中にあるグループホームという特色を生かし、他部門のスタッフの協力を得て安心できる住まいを提供しました。今年もボランティアとの食事は様子をみながらの数回の開催となり、自治会のお祭り中止等様々な人との関わりを持つ機会が減ってしまいましたが、ホーム内でパーティーションを利用

して、厨房企画のイベント食や出前を取る事で生活の変化を楽しみました。高齢化により精神症状が悪化し、入退院を繰り返すという出来事もありましたが、なるべくホームでの生活が続けられるようスタッフ一同サポートしました。

◆ 本藤沢の家

市内では数少ない、アパート形式で自立性の高い本藤沢の家での暮らしの中では、毎日の夕食時間が重要なコミュニケーションの場となっています。しかし、今年度もコロナ禍により密を避け、パーティションを設置し2グループに分けての夕食となりました。毎週土曜日の料理サークルや、ボランティアとの語らいを楽しみにしていた手芸サークル「けいと玉」も中止となりましたが、忘年会は感染状況をみて開催出来ました。市内の企業から毎年いただく「クリスマスケーキ」、スタッフが工夫を凝らして正月の「ミニおせち」「お雑煮屋さん」を開く等生活のアクセントとなるイベントは注意しながら行い、厨房の季節感あふれる食事も単純な日常のなかで大きな楽しみとなりました。

2-7 障がい者相談支援事業（計画サポートぐる一ふ藤）

障がいがあっても地域で自分らしく暮らし続けていくために、7人の相談支援専門員が様々な制度やサービス、社会資源や人を調整しその方に寄り添い活動してきました。在宅で8050問題を抱えるご家族や精神科病院、更生施設、就労系事業所からと相談依頼は多岐にわたり、障害福祉制度を超えて、また藤沢市内にとどまらず多様な支援を行いました。

障がい者の相談支援の場合ご本人の要求とニーズを吟味し本当に必要な支援は何かを知る事が大切です。そのために関係する事業所、医療関係者、他の相談機関、障害福祉課等行政との連絡調整と情報収集を行い、困難と思われるケースでは、月一回のミーティングだけでなく日々互いに相談しあう事で、相談支援専門員が一人で抱え込まず良い支援に繋がることが多々ありました。一方コロナ禍で日中支援事業所が閉鎖になり在宅で長期にわたって過ごすことになったり、予防接種の手配が困難だったり相談支援専門員が通常とは異なる業務に関わらざるを得ない状況も今年は多くありました。

様々な障害特性を理解したうえでその方に合った支援の方法を見つけるためにリモート研修などに積極的に参加しました。

2-8 高齢者住宅（ぐる一ふ藤一番館）

「終の棲家」としてお住まいの方にその方らしく心豊かに暮らしていただくために、ご本人ご家族と相談しながら介護保険による看護小規模多機能型居宅介護、小規模多機能型居宅介護、ホームヘルプ、外部事業所のデイサービスなどを利用し生活の質を維持できるように支援しました。

今年度もコロナ感染症対策に対応する一年となりましたが、昨年の経験を生かし万全の感染症対策をとって食やイベントの楽しみをご入居者と一緒に考えました。管理栄養士、調理師と連携しご当地メニュー、季節のイベントメニュー、お寿司のケータリングの利用を取り入れ提供を行いました。イタリアンシェフによる手作りピザでは、ご入居者の目の前でピザ生地を作るパフォーマンスを披露しご入居者自身がトッピングを楽しみました。シェフに生地の材料を尋ねたり焼きたてピザの美味しさに感激されていました。

ご入居者、スタッフ共に新型コロナワクチン接種2回目が終了し、藤沢市の新型コロナウイルス感染者数が一桁になった時に、フラダンス鑑賞やチェロ・電子ピアノによるクリスマスコンサートを行いました。久しぶりに聴いた生演奏に感動し涙を流される方もいらっしゃいました。中止していた音楽療法も再開し居室から笑い声や歌声が聞こえ、スタッフもほがらかな気持ちになりました。

一方、看取りに対してもご家族の気持ちに寄り添い、今できることを具体的に提案する等いつでも相談できる体制をとり、その方らしく穏やかに最期の日を迎える事ができるように他部門多職種とも連携を図り対応しました。コロナ禍のため他施設ではご家族が最期まで看取ることができないと相談にこられた方を受け入れ、寄り添うことができ短い期間でしたがご家族には感謝の言葉をいただきました。

2-9 サービス付き高齢者向け住宅（ぐる一歩藤二番館・柄沢）

開設から5年が経過し、目標を上回る方々にお住まいいただいています。年齢も60代から90代の方まで幅広く、そのためコンシェルジュの対応も毎日の安否確認や生活相談サービスを始め救急車の緊急対応、催し物の案内、引越し支援、館内外の清潔保持等多岐に渡っています。夜間の緊急駆けつけ数は12件でした。その内、救急車対応1件、駆けつけのみの対応5件、その他セコム の押し間違い等6件でした。夜中の緊急対応に備え、ご入居者の安心・安全・快適な住空間の確保に努める多様な援助を行いました。昨年多かったセコム のライフ異常はその都度確認を行いシステムの改善に努めました。

今年度も新型コロナウイルス感染症に始まり、その変異株の広がりにより一喜一憂しながら過ごした一年間でした。緊急事態宣言や蔓延防止法の発令が相次ぎ、一度は再開できた朝のラジオ体操もオミクロン株の急激な感染者増で再度中止となりました。そんな中、引きこもりがちなご入居者の様子を見守りながら、折り紙教室開催やオレンジまるだい主催の脳トレ教室への参加など少しずつ交流を再開しました。自由に活動される元気なご利用者が多い中、マスクの着用や手指の消毒の徹底呼びかけを引き続き行いコロナ感染者を出すことなく日常生活を継続できました。

ホームヘルプ、デイサービス、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護のサービスを組み合わせて支えるなど、法人一丸となって取り組み、切れ目のない援助でご入居者ご家族を最期まで支えることを心がけました。

同一敷地内にある小規模多機能型居宅介護、デイサービス、居宅介護支援、レストラン等のサービスと連携することで情報を一元化し、ご入居者の体調に合わせて食事の形態を工夫するなどスムーズに支援内容を調整でき、サービス付き高齢者向け住宅の役割を果たすことができました。

2-10 厨房及びレストラン オハナ

厨房では新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底し、安全で安心できる食事を提供しました。

コロナ禍で外出やイベント等が出来ない中、一番館にお住まいの方や看護小規模多機能型居宅介護のご利用者に食事を楽しんでいただきたく、端午の節句・七夕・敬老の日・秋分の日・スポーツの日・クリスマス・お正月・七草粥・節分・バレンタイン・桃の節句・春分の日と、たくさんの行事食や「毎月のお楽しみ！ご当地グルメ」「みんなで作ろう！焼きたてピザ」のイベント食も行いました。

今年度は食品衛生法の改正により改めて新規営業許可を保健所に申請し、HACCPに沿った衛生管理の実施を行いました。

併設のレストラン「オハナ」はコロナ禍による影響でなかなか再開出来ませんでしたが本藤沢の家の夕食提供は継続し、世代に幅のあるご利用者に満足していただけるようメニューに変化をつけ対応しました。

2-11 レストラン マハロ

サービス付き高齢者向け住宅にお住まいの方に昼食から夕食まで幅広い献立で温かい食事を提供しました。

コロナウイルス感染症予防対策としてレストラン来店時に手洗い・消毒・マスク着用の声かけを徹底しました。特に夕食時は来店時間が集中するので、時差来店と黙食の協力をお願いしお互い安心して過ごせるよう努めました。

一瞬ではありましたが一般の方の利用も可能となり「ずっと来たかったのよ」との声に、改めてたくさんの方に喜んでいただいている事を実感しました。

小規模多機能型居宅介護には、特別食をはじめ桃の節句・こどもの日・七夕・敬老の日・ハロウィン・クリスマス・七草粥・鏡開き・節分・バレンタイン等季節を感じる行事食を楽しんでいただきました。

また前年度取得したお弁当販売の許可を生かし、サービス付き高齢者向け住宅にお住まいの方をはじめ看護小規模多機能型居宅介護ご利用者のお弁当作りも行いました。

そしてコンシェルジュや二番館で働くスタッフと共にお住まいの方の日常を支える役割も果たしました。

2-12 総合相談窓口

総合相談窓口は、看護師・保健師・介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士・ケアマネジャー等が多数在籍しているぐる一ふ藤の地域活動として、福祉・医療、住まいの相談に応じました。また、フードバンク関係の相談にも応じました。

感染症予防の観点から、館内への立ち入りを制限したため来館での相談は減りましたが、障がいサービスの問い合わせや住まいの相談など電話での相談が多数ありました。

困っている様子の高齢者にお声かけし、警察につなげたり、一番館の前で具合が悪くなった方に館内で休憩していただき、自治会長、民生委員と連携し無事ご自宅までお送りしたことがありました。長年の経験を生かし一人ひとりの状況を理解し、弁護士・民生委員・地域包括支援センター等に橋渡しをする地域の駆け込み寺・NPO版地域包括支援センターの役割を果たしました。

2-13 地域ささえあいセンター（ヨロシク♪まるだい）

地域ささえあいセンター「ヨロシク♪まるだい」は、地域の中で孤立したり生活に不自由を感じたりする方に手助けをする場として10月に8年目を迎えました。地域の方々に食事と憩いの場を提供する「みまもり食堂」としての役割を果たす方法を模索した結果、食堂は中止しスープの持ち帰りの提供を始めました。一日限定20食ですが具たくさんのおスープを喜んでいただいています。持ち帰りスープの予約は受けていませんが必要と思う方には予約を受け、地域の方とのかかわりを大切にしています。

地域の縁側としての相談窓口は平常通り開け、生活支援コーディネーターによる見守り、生活相談を続けることができました。「ヨロシク♪まるだい」の前の自動販売機で困っている方が認知症と見受けられ、声をかけ続けたところ毎日のように「ヨロシク♪まるだい」に来ていただけるようになりました。その方は独居で大切なものを失くしたとの訴えがある度にお宅へ伺い一緒に家の中を探しました。入浴ができなかったようなので自宅のお風呂にお湯をはり、入るよう声かけをしたり一緒にコインランドリーへ行き洗濯もしました。お住まいの地区は民生委員がいなかったため「ヨロシク♪まるだい」以外に見守りの手段が見つかりませんでした。その後、地域包括支援センター、社会福祉協議会、市役所へ繋ぎ市長申し立てを行い後見人の手続きをすることができました。

コロナの影響で外出制限があり孤立しがちな高齢者が少しでも人と接する機会を持てるよう、イベントは人数制限・予約制で内容を限定し太極拳、健康体操、

フラダンス、手芸、書道教室、地域の写真サークルへのギャラリー提供を行い、新たに「ゆるっとヨガ」を始め大変喜ばれています。

昨年に引き続きシリーズで行っている「終活セミナー」、「おしゃべり会」、「オレンジまるだい」は脳トレを中心に行い、地域の参加者が広がってきました。食事の提供が出来なかったにも関わらず毎月300人を超える方々と支え合うことが出来ました。

藤沢地区ささえあい会議では自治会、民生委員、老人会、公民館、地域包括支援センター、行政等と情報交換、意見交換等行い地域作りを担う他団体との連携に努めました。そこでは地域生活に役立つ「地域ささえあいマップ」を昨年に引き続き作成しています。より一層地域との交流を図るため、公園体操、公園掃除にも参加しました。

「フードバンクふじさわ」のパントリーとして月に2回、生活に困窮されているひとり親世帯、ひとり暮らしの大学生に食料支援を行いました。

2-14 子どもの生活支援事業（こどもまるだい）

子ども生活支援事業「こどもまるだい」は6年目を迎え、地域の温かい環境で子ども達に「安心して過ごせる居場所」を提供しました。コロナ禍にもかかわらず子どもへの支援に休みはありません。小学校4年生から高校3年生まで32名の子どもたちは日々成長しています。父子二人で暮らしていた高校3年生の父親が急に他界し児童相談所に保護されていましたが、グループホームに入所する事になり安心して送り出すことが出来ました。いくつになっても居場所として利用しつづけられる緩やかな仲間のいる場所として定着してきました。

食を提供する場として子ども達の手洗いも習慣になってきました。万全のコロナ対策をし家庭的な雰囲気味わえるよう、こだわりを持って食事提供をしました。子どもたちのリクエストにより大好物の唐揚げやハンバーグを作るとお代わりをする様子が見られ経験豊かなスタッフが料理の工夫をすることで苦手なおかずも「美味しい」と言って食べられるようになってきました。子ども食堂に賛同された方が釣りたての太刀魚や鰯などを持ってきて、その場でさばいてくださり新鮮な魚を食べることができました。旬の食材や行事を取り入れて季節の移り変わりを感じてもらおうよう心がけました。

今年も農福連携によるたくさんの野菜や、フードパントリーへの参加により子ども達が定期的に食品を持ち帰ることができました。また支援団体からの寄付により、子ども達の親睦会としてボウリング大会を開催しました。初めてボウリングをやる子どもも楽しむことができました。地域の方からクリスマスケーキや果物、お菓子等をいただき子ども食堂が認知されるようになってきたことを実感しています。

お楽しみイベントではぐる一ふ藤二番館の駐車場でスイカ割りや花火を楽しみました。子ども食堂では餅つきや、東京オリンピックで見たボッチャをして閉塞感のある日常に少しでも変化を作ってきました。

コロナ情報を市の担当者とも共有しながらコロナ禍でも細心の注意をはらい運営しました。子ども達が誰一人感染せず、元気に過ごせたことで「安心して過ごせる居場所」の役割を果たしました。

3. 管理部門

今年度は事務局会議を毎月開催しました。ぐる一ふ藤総体の事務局として管理運営に責任をもち、多くなっていく業務を効率的に遂行できるよう体制を整えました。定款・就業規則・労働基準法をはじめとする法令の遵守を徹底するとともに、官公庁への各種届出、コロナ感染症サービス提供体制確保事業費補助金申請、女性活躍推進法による行動計画など年々増える書類の提出を確実に行いました。給与規定、内規の見直しをはじめ、給与明細の書式変更、各部門の日誌や勤務表のフォーマット作成など、法人の書類の整備にも取り組みました。

安全衛生委員会のPCR検査やワクチン接種、30周年記念式典をはじめ各委員会の事務作業を担いました

システム関係では、サーバーをクラウドストレージに変更し、新しいセキュリティソフトの導入、経費削減を目的とした業務用携帯電話の入れ替えなど大きな変更を行いました。さらに各部門の増加するZoom研修や会議への対応を行いました。

経理部門では領収書の保存方法を変更し電子帳簿法改正に対応しました。また、会計ソフトを活用したり、一部部門の出勤簿入力をタブレットで行うなど、作業時間の短縮を図りました。

様々な介護ソフトや勤怠ソフトの検討を行いました。導入には至らず、今後の課題となりました。

3-1 会員（メンバー）と福利厚生

メンバーの紹介により福祉のまちづくりの理念に賛同する仲間が9名増え、3月末で会員は159名となりました。各々の資格や能力を生かして皆がやりがいをもって働ける多様な職場づくりをめざし、自己実現の場をつくりました。今年度から新入会者のサポートの為に配属後約1か月をめぐりに面談を行いました。

福利厚生の充実にも努め、働き方改革における「年5日の有給休暇取得」は対象者の100%が取得しました。福利厚生サービス「しおかぜ湘南」に加入する会員も増えました。新年会として昨年度好評だった「ドリームジャンボ宝ふじ」オンライン抽選会を行い、明るい話題を振りまきました。

福祉関連有資格者（2022年3月現在・重複あり）

ホームヘルパー 1級：	3名
2級：	85名
Aヘルパー修了者	5名
初任者研修修了者	17名
実務者研修修了者	14名
同行援護従事者	7名
行動援護従事者	4名
同行援護サービス提供責任者	2名
ガイドヘルパー	24名
認定特定行為業務従事者	8名
（喀痰吸引研修修了者）	
介護福祉士	72名
保健師	1名
看護師	7名
准看護師	1名
柔道整復師	1名
介護支援専門員	14名
障がい相談支援専門員	11名
精神保健福祉士	3名
社会福祉士	6名
社会福祉主事	3名
福祉住環境コーディネーター	6名
認知症ケア専門士	1名
学習療法士1級	1名
管理栄養士	2名
栄養士	7名
調理師	8名
食品衛生責任者	9名
キャラバンメイト	6名
普通救命講習I修了者	113名
シニア・インストラクター	2名
アセッサー講習修了者	6名

3-2 広報活動

広報誌「花どけい」は従来からの紙面を見直し、より読みやすい広報誌をめざしました。併せてメールマガジン「ぐる一ふ藤通信」の配信をはじめました。紙面では、ぐる一ふ藤の変わらぬ理念、2021年度新体制、ぐる一ふ藤30周年や2023年度オープンの三番館の発表、法人の新型コロナウイルス感染症対策について等を報告しました。また、ご利用者やスタッフたちの様子、細かな情報、地域に根づいた活動などを掲載しました。ぐる一ふ藤通信は、紙面に掲載しきれない写真や情報をより身近で親しみやすくお伝えしました。ご利用者の様子の配信は、コロナ禍で面会時間が少なくなってしまったご家族からも好評でした。新しい生活様式を取り入れながら、タイムリーな情報発信を始めることができました。

居住支援、まるだい、研修や一番館、二番館の問い合わせの方などに対する資料の作成に加え、今年度はフードバンクの資料作成等も担いました。

3-3 諸団体での役割

- ・ 認定NPO法人市民福祉団体全国協議会 代表理事
- ・ 一般社団法人市民福祉支援協議会 代表理事
- ・ 民間介護事業推進委員会 委員
- ・ 藤沢市個人情報保護制度運営審議会 委員
- ・ 藤沢市住まいと暮らし連絡会 役員
- ・ 藤沢市精神障がい者地域生活支援連絡会 委員
- ・ ふじさわ福祉NPO法人連絡会 代表
- ・ 藤沢市相談支援連絡会 委員
- ・ フードバンクふじさわ 運営委員
- ・ 藤沢市居住支援協議会 副代表

4. 研修プロジェクト

学びの3本柱「理念と意思の共有」「スキルアップ」「新しい介護」を継承するために今年度も研修プロジェクトを設置しました。

今年度はコロナ禍の中、工夫し研修を行う事ができました。第28回三重大学教授竹内佐智恵先生の研修はリモートで開催することができました。

湘南精神保健福祉事務所長 長見英知氏による「こころの病 身近な病気」では、精神疾患は誰にでも起こり得る身近な病気であるという事を学びました。

洗剤・環境科学研究所代表長谷川治氏による「コロナと石けん～科学的視点から考える～」では、新型コロナウイルスに有効な消毒・除菌方法の中からいかに石けんに有効性があるかを国立感染症研究所による実験結果を示しながら説明

していただきました。ぐる一ふ藤が30年間石けんを使用していることに改めて自信を持つことができました。

スキルアップ研修には、厚生労働省「介護プロフェッショナル・キャリア段位制度」のレベル認定に対応した「根拠のある介護」に基づき統一した介護の研修を実地とリモートで行いました。全4回で延べ178名のメンバーが参加し技術の向上をはかりました。

昨年同様、密にならないよう1回の参加人数を減らし回数を増やした「理念研修」は計9回、108名の参加で行いました。短い時間でしたがぐる一ふ藤の基本理念とそれぞれの思いを確認、共有することができました。管理者研修ではぐる一ふ藤のミッションとビジョンについて改めて考え、管理者としての役割の自覚について学びました。

ボランティアすみれ主催・研修プロジェクト共催の、日本福祉大学福祉系学部教授・社会福祉法人睦月会理事長 綿祐二氏の研修「高齢者及び障がい者の権利を守る」は、新型コロナウイルス感染症拡大のため何度も延期になりましたが、1月に行うことができました。虐待防止について学び、グレーゾーンについてのグループワークでは根拠の重要性を改めて実感しました。高齢者・障がい者のケアに役立つ研修となりました。

5. 安全衛生委員会

昨年に続いて、新型コロナウイルスに翻弄された一年でした。幅広い年齢層のご利用者や重症化しやすい高齢者に携わる福祉施設として、新型コロナウイルス感染症対応策の「マニュアル」を各部門に配布し情報共有を図りました。

11月に入り、感染者が減ったところに12月頃から変異株が出現し、年明けに予断を許さない状況になりました。それからは、まん延防止等重点措置の実施期間中の感染状況に注視しながら、引き続き衛生用品の補充や空気清浄機の追加、家族面会の時短、場所の限定や入館制限変更等、高齢者の感染防止を確保するため、昨年の経験を生かし対応してきました。

昨年の入居者ワクチン接種に続き2回目のスタッフワクチン接種を終え、今年1月にはいち早く3回目の職域接種を協力医療機関で実施することができました。また、日本財団による週1回のPCR検査も継続しているところです。

2月に入り国や県、市の発表をもって、委員会で話し合い見直しを図り、濃厚接触者の待機期間の短縮を実施しました。

セルフケアの充実化および働きやすい職場環境の形成を目的とした「ストレスチェック」を今年も実施しました。スタッフは自ら感染する不安を抱えながら働いている実情の中、質問や相談には丁寧に答え不安や緊張を取り除くよう対応しました。

6. 防災委員会

今年度もコロナ感染症予防のため、大規模な訓練はできませんでしたが、部門ごとの訓練やスタッフが密にならないように工夫し訓練を行いました。全体の防災訓練は地震想定避難訓練と安否確認訓練を行いました。災害対策本部が立ち上がったと想定し情報を集約する訓練でした。各部門ごとのマニュアルや緊急連絡網の再確認ができました。今まで曖昧だった地震発生時の安否確認基準と方法を策定しました。

6月に藤が岡周辺で停電が発生しました。備蓄品の水等の使用や発電機等の準備、サービス提供維持のためのスタッフ配置、厨房では臨機応変な食事の対応ができ、日ごろの訓練が生かされました。訓練の大切さを感じました。また、積雪に向けて融雪剤を備蓄するなど、自然災害に対しての対策も行いました。

昨年度から継続しているBCPの作成は多くの視点からの作成が求められ、来年度への課題となりました。

7. 居住支援チーム 住まいる[▲]藤

4年目を迎えた国土交通省の「共生社会実現に向けた住宅セーフティネット機能強化・推進事業」を受託し、住宅確保要配慮者の民間住宅への入居に関わる情報提供、相談、見守りなどの入居支援・継続支援を行いました。

ケアマネジャー、障がい相談支援専門員、精神保健福祉士、社会福祉士、介護福祉士、藤沢市生活支援コーディネーター等の資格を持つ5名のスタッフが、入居前相談から不動産店への同行・紹介、契約のお手伝い、その後の生活相談等を行いました。

行政や社会福祉協議会、地域包括支援センター等からの相談も増え、その結果116件の電話や来訪による相談がありました。79件の同行・マッチング支援を行い、サービス付き高齢者向け住宅等の施設には7件、民間賃貸住宅には13件の入居のお手伝いをしました。その中で特徴的なのは障害グループホームへの入居相談が増えてきたことです。遠方からの相談やコロナ禍の入院中で直接面談出来ない場合は、Zoom面談で入居までの手続きを行った方もおられました。また、藤沢市居住支援協議会が具体的に活動を開始し、12月に「令和3年度住まい探し相談会」を開催しました。「住まいる藤」のこれまでの活動が生かされ、なお一層居住支援について周知され、さらにその後の相談が増えました。相談会では、新たな不動産店と顔の見える関係ができました。藤会員全員が協力している住まいる隊活動では、入居時の引越し支援や17件の継続支援を行っています。

外部への研修は、神奈川県居住支援協議会主催のセミナー、神奈川県・かながわ生活困窮者自立支援ネットワーク共催のセミナー等にZoom参加し、他

地域の情報を得たり、参加者と意見交換を行うことができました。

1月には会計検査院による会計実地検査が行われ、2018年度から2020年度までの3年間の補助金の使途について精査を受けました。いくつかの助言をいただき、今後の事務作業の参考になりました。

8. 外部活動

幼児教室どんぐり園、コンフォール藤沢自治会、柄沢町内会、ボランティアすみれ及び他団体と連携しながら地域に根ざした活動を行いました。地域で地道な活動をするNPOや障がい者団体等に「まちづくり対策費」を活用しそれぞれの活動を支援してきました。また、パラスポーツ支援のための寄付活動である「ふくのわプロジェクト」にも協力しました。

代表を務めるふじさわ福祉NPO法人連絡会は、コロナ禍の影響により書面開催となる事もありました。昨年度立ち上げた生活困窮者への食料支援活動「フードバンクふじさわ」はぐる一ふ藤が事務局を担いました。予想をはるかに超えた反響があり、多くのボランティアと共にニーズに応えました。また、就労支援にもつなげ、利用者に伴走する事業として活動しました。

市民協を代表し民間介護事業推進委員会の委員を務め、厚生労働省老健局課長と意見交換を行いました。様々な機会を通して、ぐる一ふ藤の活動を広く紹介するとともに啓発活動を行いました。

※市民協：認定NPO法人市民福祉団体全国協議会

◇講師

9/31九州大学研修講師

9. 30周年記念事業実行委員会

創立30周年記念式典を3月5日に開催しました。コロナ禍のため一度は延期を余儀なくされましたが実行委員会を計16回開き検討を重ねました。蔓延防止等特別措置の中243名収容できる会場を100名程度に抑え、時間短縮、イオンクラスターの設置等感染症対策を徹底しました。藤沢市長、横浜商工会議所会頭他多くのご来賓が来られましたが、遠方の方には出席を遠慮していただく苦渋の決断も必要でした。30年の歩みを集約したスライドショーは来賓の方々、会員に大変好評でした。歴代理事長紹介は30年の歴史の重みを感じました。様々な制限はありましたがぐる一ふ藤らしい式典になりました。記念講演はクリエイティブディレクター・クリエイティブコンサルタント・good design company 代表 水野学氏に「ブランディングデザインとぐる一ふ藤」と題して、お話しいただきました。水野氏の代表作の「くまモン」「相模鉄道」のブランデ

ィングプロセスやデザインへの身近な考え方、そしてぐるーぷ藤のロゴにつながる「30周年 おめでとうございます」のデザインをプレゼントしていただきました。

10. 三番館建設委員会

“福祉の街づくり”をめざし一番館・二番館と同様に地域の福祉の拠点として、皆と繋がりながら自分らしくいきいきと暮らせる場や、多様なメンバーがお互いに助け合って働く場を作り出す事を目的とし、三番館建設に着手しました。

一番館・二番館の運営から見てきたニーズに対応するために、産後ケアセンター、障害者グループホーム(9名)、認知症対応型共同生活介護施設(18名)、居場所の設計に入りました。8月には、いきいき長寿プランふじさわ2022年第8期介護保険事業計画藤沢市地域密着型サービス事業者募集に公募し9月に認知症対応型共同生活介護事業者に選定されました。ご本人、ご家族が「ここに入居してよかった。」と感じられるような施設をめざします。障がい者グループホームでは、身体介護が必要になったときにケアを受けやすいバリアフリーな環境を考えていきます。また、藤沢市初となる産後ケアセンターでは子育ての応援ができる、実家のような居心地を考えていましたが、藤沢市から提示された考え方は私達の意向とは全くかけ離れていたために断念せざるを得ませんでした。そのため新たに藤らしい地域に寄り添った子育て応援の策を考えていきます。

第2号議案

2021年度決算報告書及び監査報告

2021年度 活動計算書 (特定非営利活動に係わる事業)

2021年4月1日から2022年3月31日まで

NPO法人ぐるーぷ藤

(単位:円)

科 目	金	額
I 経常収益		
1 受取会費		
藤会員年会費等収入	10,000	
さわ会員年会費等収入	63,000	
賛助会員年会費等収入	15,000	88,000
2 受取寄付金		
寄付金収入		798,286
3 受取助成金等		
助成金・補助金収入	8,778,641	
委託金収入	8,485,674	17,264,315
4 事業収益		
事業収入		438,679,128
5 その他収益		
受取利息	481	
雑収入	5,329,530	5,330,011
経常収益 計		462,159,740
II 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費		
給料手当等	203,852,986	
有償ボランティア	1,265,085	
通勤交通費	3,451,384	
福利厚生費	506,717	
人件費 計	209,076,172	
(2) その他経費		
食材費	16,486,415	
印刷製本書籍費	1,246,376	
会議・研修費	91,080	
旅費交通費	1,274,989	
通信費	2,790,654	
消耗品費	7,256,185	
修繕費	2,366,592	
水道光熱費	13,279,014	
家賃支出	8,316,000	
リース料	7,643,934	
減価償却費	1,056,721	
生活支援CD事業費	2,038,934	
保険料・管理諸費	4,516,968	
街づくり対策費	241,116	
雑費	380,232	
その他経費 計	68,985,210	
(3) 事業・間接費		
給料手当等	41,639,978	
賞与手当	9,961,000	
法定福利費	28,895,250	
家賃・地代家賃	4,800,000	
支払利息	18,596,102	
租税公課	8,998,100	
減価償却費	43,481,517	
事業・間接費 計	156,371,947	
事業費 計		434,433,329

2 管理費			
(1) 人件費			
給料手当等	2,547,600		
有償ボランティア	218,735		
退職金	100,000		
通勤交通費	242,520		
福利厚生費	3,215,192		
人件費計	6,324,047		
(2) その他経費			
印刷製本書籍費	138,477		
会議費	129,835		
旅費交通費	288,071		
販売物品費	1,280,487		
通信費	605,528		
消耗品費	359,222		
修繕費	454,054		
水道光熱費	200,317		
家賃支出	420,000		
リース料	7,844,747		
研修費	174,949		
交際費	207,000		
保険料	1,553,883		
管理諸費	3,611,221		
雑費	1,515,511		
その他経費計	18,783,302		
管理費計		25,107,349	
経常費用計			459,540,678
当期経常増減額			2,619,062
Ⅲ 経常外収益			
経常外収益計			0
Ⅳ 経常外費用			
1 固定資産除却損		3	
経常外費用計			3
税引前当期正味財産増減額			2,619,059
法人税、住民税及び事業税			70,000
当期正味財産増減額			2,549,059
前期繰越正味財産額			114,613,113
次期繰越正味財産額			117,162,172

2021年度 貸借対照表

2022年3月31日現在

NPO法人ぐるーぶ藤

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	1,564,875		
小口現金	3,932,000		
普通預金	39,140,814		
未収金	69,261,120		
貯蔵品	700,398		
前払金	3,822,077		
立替金	219,682		
流動資産合計		118,640,966	
2 固定資産			
(1) 有形固定資産			
建物	914,916,762		
建物附属設備	28,811,884		
構築物	26,229,847		
車両運搬具	1,853,656		
什器備品	2,789,775		
土地	166,519,448		
有形固定資産計	1,141,121,372		
(2) 無形固定資産			
水道施設利用権	3,823,938		
電話加入権	180,600		
ソフトウェア	186,300		
無形固定資産計	4,190,838		
(3) 投資その他の資産			
敷金	1,683,000		
保証金	80,000		
投資その他の資産計	1,763,000		
固定資産合計		1,147,075,210	
3 繰延資産			
二番館開設準備金	209,432		
三番館開設準備金	2,344,650		
繰延資産合計		2,554,082	
資産合計			1,268,270,258
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	27,294,047		
前受金	24,721,634		
預り金	3,050,600		
預り保証金等	24,361,000		
仮受金	250		
流動負債合計		79,427,531	
2 固定負債			
長期借入金	888,180,555		
擬似私募債	183,500,000		
固定負債合計		1,071,680,555	
負債合計			1,151,108,086
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		114,613,113	
当期正味財産増減額		2,549,059	
正味財産合計			117,162,172
負債及び正味財産合計			1,268,270,258

(注)

- ・ 財務諸表の作成は NPO 会計基準(2010.7.20 2011.11.20 一部改正 NPO 法人会計基準協議会)によっています。
- ・ 消費税等は税込経理により処理しています。

2021年度 財産目録

2022年3月31日 現在

NPO法人 ぐるーぷ藤

(単位: 円)

科 目	金 額	金 額	金 額
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	現金手許有高	1,564,875	
小口現金		3,932,000	
普通預金	7口座	39,140,814	
未収金	国保連未収金	44,108,915	
	利用者未収金	19,211,666	
	その他未収金	5,940,539	69,261,120
貯蔵品	販売物品	412,588	
	食材	129,943	
	会員用消耗品	157,867	
前払金	前払保険料	1,014,699	
	前払いその他	2,807,378	
立替金		219,682	
流動資産合計			118,640,966
2 固定資産			
(1) 有形固定資産			
土地	一番館 藤が岡	166,519,448	
建物	一番館 藤が岡	234,736,888	
	二番館 柄沢	680,179,874	
建物附属設備	一番館 藤が岡	28,349,059	
	二番館 柄沢	462,825	
構築物	一番館 藤が岡	171,502	
	二番館 柄沢	26,058,345	
車両運搬具	自動車7台	1,853,656	
什器備品	一番館 藤が岡	1,357,096	
	二番館 柄沢	1,432,679	
(2) 有形固定資産計		1,141,121,372	
水道施設利用権	二番館 柄沢	3,823,938	
電話加入権		180,600	
ソフトウェア		186,300	
(3) 無形固定資産計		4,190,838	
敷金	藤が岡 駐車場4台ほか	1,683,000	
保証金	セコムAED等	80,000	
投資その他の資産計		1,763,000	
固定資産合計			1,147,075,210
3 繰延資産			
繰延資産	二番館開設準備金	209,432	
	三番館開設準備金	2,344,650	
繰延資産合計			2,554,082
資産合計			1,268,270,258
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	従業員給料	18,742,580	
	諸経費等	8,551,467	
前受金	高齢者住宅入居金等	24,721,634	
預り金	社会保険料等	3,050,600	
預かり保証金	高齢者住宅敷金等	10,723,000	
	グループホーム敷金	2,058,000	
	サービス高齢者住宅敷金	11,580,000	
仮受金	湘南勤労者会費他	250	
流動負債合計			79,427,531
2 固定負債			
長期借入金	横浜銀行 二番館・柄沢	634,600,000	
	横浜銀行等	253,580,555	
擬似私募債	一番館・藤が岡	87,000,000	
	二番館・柄沢	96,500,000	
固定負債合計			1,071,680,555
負債合計			1,151,108,086
正味財産			117,162,172

監査報告書

NPO法人ぐるーぶ藤
理事長 佐藤 律子 殿

下記の通り監査をいたしましたので、ご報告いたします。

記

- ・ 監査実施日 2022年5月17日
- ・ 立 会 人 理事長 佐藤 律子、会長 鷲尾 公子、常務理事 笹原 美恵子
事務長 佐藤 由実 オブザーバー 藤井 美和
- ・ 監査対象期間 2021年4月1日～2022年3月31日
- ・ 監 査 方 法 実査及び立会人からの聞き取り

1. 会計監査

- ・ 諸伝票、預金通帳、現金、証憑書類並びに活動計算書、貸借対照表及び財産目録などについて実査した結果、いずれも適正に処理されていることを認めます。

2. 業務監査

- 理事長佐藤律子氏及び会長鷲尾公子氏から2021年度事業に関する概要説明を受け、当該事業計画に沿って監査を実施しました。
- ・ 今年度も新型コロナウイルス感染症が蔓延しコロナ対策に翻弄された一年でした。感染すると重症化のリスクが高いといわれる高齢者に日々接するスタッフの献身と努力に敬意を表します。
 - ・ 感染予防対策に備品・消耗品を購入するなど想定外の支出が多かった中で、各部門の業績が向上し黒字決算という結果は大いに評価いたします。
 - ・ コロナ禍に創立30周年を迎えて、感染防止に最大の配慮をした上で温かな雰囲気の中、30周年記念式典・記念講演を無事に終え、記念誌の発行を待つばかりという状況にスタッフの心意気を感じます。
 - ・ 来年度は三番館の建設が始まり、また一步前進するぐるーぶ藤に期待いたします。

2022年5月17日

監事 小野 淑子

監事 藤澤 抱一

第3号議案

役員改選について

定款第11条および12条による

報告

2022年度事業計画

I. 事業方針

(1) 基本方針

年をとっても、障がいがあっても、病気になっても安心して暮らせる地域社会をつくるため、特定非営利活動法人として社会的責任を果たすとともに、市民相互の助け合いのまちづくりをめざします。

(2) 運営方針

1. 組織運営

認定NPO法人ぐるーぷ藤は、趣旨書および定款にもとづき事業を行います。理事会の議決を経て事業と活動の方針について討議する運営会議を月1～4回行います。そこでまとめられた提案事項について毎月開かれる部門代表会議で検討し、その後全メンバーを対象に開催される運営報告会で活動を共有します。また、各部門会議において会員の意見交換を行いその内容を事業活動に反映させる運営をめざします。

昨年度は10名の新しい仲間を迎えそれぞれの部門で活躍してもらうことができました。2023年の三番館開所に向けメンバーが増えることが予想され、新メンバーには言葉遣い・接遇マナー・就業規則などを盛り込んだ新人研修や5部門での約20時間の現場研修を通してぐるーぷ藤の歴史や理念、事業を理解してもらうよう努めます。法人全体として、初任者研修・実務者研修・介護福祉士・介護支援専門員・相談支援専門員・社会福祉士・精神保健福祉士・調理師等の資格取得を目標に活動するよう引き続き働きかけます。また、介護キャリア段位制度を活用した人材育成に取り組めるよう努めます。

創設の理念を共有し継承することを大切にして、多様な働きかけを実践します。今年度もホームヘルプを対人援助の基本と捉え、各部門のスタッフが在宅支援を経験することをすすめます。部門間の連携を密にし組織力を強め、スタッフのスキルアップにも一層力を入れます。

また、三番館の障がい者グループホーム、新しい事業である認知症グループホーム、多世代の集まる市民の居場所の開所に向け様々な準備を行います。

2. 事業・活動部門

2-1 訪問介護事業（ぐるーぷ藤ホームヘルプ）

住み慣れた地域で安心してその方らしく暮らしていただくため、ご利用者に寄り添い心のこもったホームヘルプサービスを心がけていきます。

コロナ禍で外出機会が減り自宅で閉じこもりがちながご利用者が多いため、温かいコミュニケーションを心がけ、体調の変化や日々の会話からの気づきを大切に、その方が安心して在宅生活を継続していけるよう、寄り添い見守っていきます。また、ヘルパーとサービス提供責任者がチームとなって情報交換し、さらに、ケアマネジャーや相談支援専門員などと連携・調整をしながら、ご利用者だけでなくご家族にも安心していただけるよう在宅生活を支えています。

本来事業では、その方らしい暮らしを継続するための保険外サービス、緊急時の対応、子育て支援等、様々なニーズに応え、ぐるーぷ藤らしいサービスを行っています。

会議・研修では、今年度も対人援助の基本の確認を行い、介護技術や意識の向上に努めます。さらに、昨年度に引き続き、少人数でのケース会議を行い、個々の事例における意見を交換・共有し、より良い介護をめざします。

2-2 通所介護事業（アクアデイ菜の花）

新型コロナウイルス感染症予防対策の徹底を図りながら地域に密着し、ご利用者の方々に健康と笑顔をキーワードに、自分らしく楽しく生活を送っていただけるよう機能訓練とレクリエーション等サービスを提供します。

看護師を中心に介護スタッフと連携を図りながらアセスメントシートを活用し身体状況の変化に対応します。

運動特化型デイサービスとして、日常生活動作の維持・向上を目標に、浮力を生かした水中運動、関節や筋肉の可動域を広げるプレミアムジム運動や手具を使った運動等楽しく行います。また、月一回の体力測定を行いその方に合ったプログラムを提供し、目標を達成していきます。運動後には、セルフアロママッサージやリンパマッサージを提供して、リラックス効果を高め、心身機能の向上に努めます。

レクリエーションでは、趣味活動を推進しつつ、リハビリのひとつとして取り組み、認知機能の低下を防ぎます。その他に、ご利用者同士が交流でき、会話を楽しめるよう工夫します。

スタッフは、内部研修に積極的に参加し、専門知識の向上に努めます。

国土館大学体育学部教授須藤明治先生にご指導いただき、超音波流水プールの良さと効果を伝え、ひとりでも多くの方に経験していただき、地域の皆さまの健康を支えられるよう情報を発信していきます。

2-3 居宅介護支援(ぐるーぷ藤ケアマネジメント)

認知症になっても疾病を抱えても、住み慣れた地域で人生の最期まで暮らせることを目標に、ご利用者やご家族の意向に添ったケアプランの作成を行います。心身機能の低下や体調の悪化で在宅生活が困難になられたご利用者には、医療や同一法人内事業所をはじめ多職種との連携でサービス調整を迅速に行い緊急時の対応を行います。

昨年度に引き続き、コロナ感染症予防対策を徹底しながら、新規相談・計画作成・サービス調整等の業務を行います。近隣の自治会や地区民生委員の協力も得ながら、介護でお困りのご家族の負担が軽減できるよう在宅生活を支援します。

サービス付き高齢者向け住宅では、入居されたご利用者の介護認定申請、ケアプランの作成等を行い、コンシェルジュや同一敷地内のサービス事業所、レストラン等の協力を得ながら日常生活が安心して送れるよう支援します。

ご利用者のご家族にとってより良いケアプランの作成を行うため、内部研修の充実と外部研修の積極的参加に努めます。コロナ禍でZoomやWeb配信等、研修環境の変化にも柔軟に対応して多種多様な会議・講習に参加し、ケアマネジャーの資質向上に努めます。

2-4 小規模多機能型居宅介護(ぐるーぷ藤 藤の花)

在宅生活を基本に「通い・泊まり・訪問」を組み合わせたサービスでご利用者のご家族がいきいきと過ごせるように365日支援します。ご利用者の個性を大切にし、安心して過ごせる環境作りと一人ひとりの意向を尊重した対応を行います。スタッフがご利用者に寄り添い「笑い・喜び・望み」ある生活の継続に努めます。

今年度もご利用者それぞれの希望や趣味を取り入れたカルチャー、自然散策や野菜栽培などの野外活動に力を入れます。引きこもりがちな在宅生活で低下する心身機能の維持回復や孤立感を解消できるような支援に取り組みます。

同一敷地内のサービス付き高齢者向け住宅の方々の日常生活支援から細かな相談まで、コンシェルジュ・マハロ・菜の花・ケアマネジャーと連携を深め、いつでも対応できる体制を整えます。スタッフはご利用者の個別性を十分に理解し、それぞれの目標達成の意識を持って日々サービスの提供に努めます。

ご利用者の健康管理、医療との繋がりを強化して様々な身体状況の変化に早期対応できるようにします。

2-5 看護小規模多機能型居宅介護(ぐるーぷ藤しがらきの湯)

医療ニーズの高い方や退院後の療養生活を送る方々が安心して在宅で暮らせるように、「通い」「訪問」「泊まり」「訪問看護」「ケアプラン」のサービスを一

体化し、在宅の受け皿としてトータルケアを行っていきます。住み慣れた家や地域で最期まで自分らしい生活を送りたいというご利用者やご家族の思いに寄り添い一人ひとりに合わせ柔軟に対応します。信頼関係を築き居心地の良い環境を作り、それぞれの方の笑い・喜び・希望を引き出しながら日常生活リハビリからターミナルケアまで身体的、精神的な支援を行います。

自治会やボランティアの協力を得て、外出の機会を持ち地域との交流を図り社会との繋がりを大事にしています。

引き続き感染予防対策を徹底し介護・医療の連携を深め、運営推進会議などを利用し藤沢市や地域包括支援センター等と情報交換を密にし包括的なサポートを行います。

2-6 障がい者グループホーム(藤が岡の家、本藤沢の家)

ゆるやかなもう一つの家族として安心できる生活の場を提供していきます。日常生活の中での困り事を自ら解決する力を引き出し、高齢化による心身の状態の変化に上手に対応していけるよう支援を行います。

◇藤が岡の家

複合施設の中にあるグループホームという特色を生かし、様々な人との関りあいの中で、安定した生活ができるよう支援します。コロナ下で中止していた地元自治会のお祭りや防災訓練、様々なイベントへの参加を支援します。高齢化による病状の変化に対応し、看護師始め他のスタッフの温かい声かけや見守り、医療との連携で現在の生活を継続できるよう支援します。

◇本藤沢の家

アパート形式のグループホームという特徴を生かし、毎日の夕食提供を中心にコロナ下での安心できる生活を入居者とスタッフが協力して作っていきます。入居者同士の関係性を育み、就労先、日中支援事業所、医療等と連携しながら一人ひとりの生活力を高めて、それぞれの自立に向けてサポートします。

2-7 障がい者相談支援事業（計画サポートぐるーぷ藤）

障がいがある方やそのご家族の相談にのることで、その方なりの問題解決の方向性を共に探り、ご本人の最善の利益を考え意思決定支援を行っていきます。専門的な知識と経験を生かし、主として精神障がい者、知的障がい者のサポートを行います。

在宅サービスの支援だけでなく、自立訓練施設やグループホーム入居者への支援、生活困窮の問題、成年後見の問題等、障がい福祉以外の知識や行政等との連携が必要なケースが増えてきました。相談支援専門員がさらに障がいの理解を深め、多種多様な問題に対応できるよう、また相談面接の技術を磨くために、

対面研修だけでなくオンライン 利用等工夫して研修に積極的に参加します。

できる限り多くの依頼にお応えしたいと考えていますが、まずは一つひとつのケースに丁寧に対応することを大切にします。困難なケースについては担当者が一人で抱え込まず、問題解決に向かってより良い支援ができるよう法人内・外で話し合っ取り組んでいきます。

2-8 高齢者住宅（ぐるーぷ藤一番館）

お住まいの方にその方らしく心豊かに暮らしていただき最期までご家族と共に寄り添うように努めます。ご入居者の希望や機能に応じて介護保険による看護小規模多機能型居宅介護、小規模多機能型居宅介護、ホームヘルプ、デイサービスなどを利用し、生活の質を維持できるよう支援します。主治医とコミュニケーションを密にし、訪問歯科、訪問リハビリ、眼科などと連携をはかり健康管理を行います。

また、暮らしの中で心の充実を図るためにお一人おひとりとの対話や、ご家族の声を大切にし、思いや望みを叶えられる機会を提案していきます。感染症予防に努め、季節感を大切にし穏やかで笑顔のある時間が流れるよう、環境づくりに配慮します。

「おもてなしの心」を基本としスタッフ一同、知識・技術の習得に努め、もう一つの家族としての役割を担えるよう意識を高めます。また、高齢で介護度も高くなったご入居者を念頭に置き、感染症対策に配慮をした防災訓練を計画的に行いスタッフの防災意識をさらに高めていきます。

2-9 サービス付き高齢者向け住宅（ぐるーぷ藤二番館・柄沢）

介護資格を保有しているコンシェルジュに加え看護師を管理人に迎え、お住まいの方々に更に安心・安全・快適の住まいを提供していきます。丸二年間に及んだコロナ禍で中止していた朝の体操やお茶会などのイベントを少しずつ再開し、日ごろのコミュニケーションを大切にしていきます。また引き続きマスクや手洗い消毒の徹底など感染症対策も行います。マハロをもう一つのリビングと捉え、ご入居者に寄り添い個々の生き方を尊重しながら集合住宅としての援助を心がけ、満足度の高いサービス付き高齢者向け住宅の運営を行います。

併設する介護保険事業所の応援を得て情報交換を密にし、法人の二番目の拠点としてご入居者や地域の安心を支える役割も担います。コロナ禍で見送った近隣や包括支援センターに呼びかけての防災訓練も実施し、地域の防災拠点としての位置づけを明確にしていきます。災害発生時には空き室を提供するなど、NPOらしい地域の安心を支える福祉施設をめざします。

2-10 厨房及びレストラン オハナ

管理栄養士・栄養士・介護資格を保有している調理スタッフを中心に、高齢者住宅やグループホームにお住まいの方、看護小規模多機能型居宅介護をご利用の方に安全でバランスの取れた食事を提供します。

減塩食・胃腸食等にも素早く対応し、幅広い年齢層の利用者が健康を維持できるように更なるスキルアップに努めます。

また昨年度に引き続きコロナウイルス感染症予防対策を徹底し厨房内での衛生管理・商品管理を今まで以上に強化します。

レストラン「オハナ」もコロナウイルス感染症予防対策を徹底し、引き続き「本藤沢の家」の夕食提供を行います。

2-11 レストラン マハロ

サービス付き高齢者向け住宅の第二のリビングとして、美味しい食事と楽しい居場所を提供します。

小規模多機能型居宅介護には毎月のお誕生日会のケーキや季節に合わせた行事食を提供します。

また看護小規模多機能型居宅介護・小規模多機能型居宅介護・通所介護事業と同様に利用者の健康状態や生活スタイルに合わせたお弁当の販売も致します。そして緊急時の対応も引き続き行います。

「ぐるーぷ藤二番館・柄沢」全体の食を担い、コンシェルジュや他部門のスタッフと連携を取りながらお住まいの方の日々の様子を見守ります。

2-12 総合相談窓口

総合相談窓口では看護師・保健師・介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士・ケアマネジャー等が常駐し、地域の駆け込み寺として福祉・医療・住まいに関するあらゆる相談に応じます。地域の福祉活動をしてきた経験を生かし、緊急のSOSに24時間対応するとともに、必要に応じて弁護士・民生委員・地域包括支援センター・地域ささえあいセンター「ヨロシク♪まるだい」・子どもの生活支援事業「こども♪まるだい」・認知症カフェ「オレンジ・まるだい」・居住支援チーム「住まいる藤」等に橋渡しをする、NPO版地域包括支援センターの役割を担います。また、税理士による税務相談や保健師・看護師による健康相談も継続します。

これからも「福祉のまちづくり」をめざす一環として、相談者に向き合いながら丁寧に対応します。

2-13 地域ささえあいセンター（ヨロシク♪まるだい）

「ヨロシク♪まるだい」では地域の方々が気軽に立ち寄れる憩いの場・居場所を提供していきます。地域の中で孤立したり、生活に不自由を感じている人に手助けをします。また働く意欲のある人の働く場も続けていきます。

「ヨロシク♪まるだい」の最も重要な役割であるみまもり食堂は、コロナ感染の状況を見ながら柔軟に提供します。

昨年度は利用者が少ない中アンケートを行い待望のスマホ教室を開催することが出来ました。これからも誰もが気軽に参加できるよう様々なイベントを企画、継続、開催します。また「フードバンクふじさわ」の拠点として活動していきます。

生活支援コーディネーターとして利用者の相談に対応し、ニーズを把握し、社会資源の発掘とマッチングに努めます。地域包括支援センター、民生委員、自治会員、行政等と連携し、藤沢地区支え合い会議、生活支援コーディネーター会議等では情報交換、意見交換を行い他の縁側事業者と共に手を取り合って地域作りに努めます。

2-14 子どもの生活支援事業（こども♪まるだい）

地域の温かい環境の中で子どもたちに、「安心して過ごせる居場所」、保護者には「安心して子どもを託せる場所」を提供していきます。家庭的な雰囲気を感じてもらい温かいものは温かいうちに食べてもらえるようこだわりを持って提供します。

コロナ禍の継続が予想されるため、まずは感染予防、そして好みや環境の違う子どもたちが、みんなで同じものを食べることで基本的な生活習慣を身につけられるよう支援していきます。

ボランティアやスタッフと一緒に宿題をしたり、コロナ感染リスクの少ないゲームなどを工夫して楽しみます。季節毎の様々なイベントや農福連携事業、フードパントリー、地域との繋がりを子どもたち自身が感じられ、地域の中で健やかに成長できるよう見守り支援していきます。

3. 管理部門

ぐる一ぱ藤総体の事務局として管理運営に責任をもち効率的に業務を遂行できるよう努めます。各部門の請求業務、官公庁への各種届出、他団体や業者との折衝を確実にを行います。予算の執行にあたっては、人員配置・物品管理・水道光熱費すべてにおいて無駄を省き経費節減に配慮します。コロナ対策に必要な物品が過不足なく調達できるよう努めます。各部門と連携をとり、書式の見直しや簡素化を図り、事務量の削減を行います。

事業拡大によって増加する個人情報の保護には、なお一層配慮しセキュリティの管理を徹底します。

3-1 会員（メンバー）と福利厚生

まちづくりの理念に賛同する仲間を増やします。コロナ禍で働く不安を少しでも解消し働きやすい環境をめざします。それぞれのメンバーの資格や能力を生かして、皆が自分らしくはつらつと働ける多様な職場づくりに努め、自己実現の場をつくりまします。コロナ下においても多くのメンバーが参加し親睦を深められるような交流会の開催、有給休暇の取得の推進、健康診断、各種食事代補助、休業補償に加え、福利厚生サービス「しおかぜ湘南」の加入を勧め、より一層福利厚生の充実を図ります

3-2 広報活動

地域に定着してきた広報誌「花どけい」は、ご利用者や見学者へ提供するとともに街づくりの情報発信の媒体として有効活用できるよう、様々な情報を掲載していきます。

法人全体の紹介が出来るパンフレットの作成や「アクアデイ菜の花」をご検討の方、居住支援を必要とされている方、そのご家族やケアマネジャーのニーズにも合わせた資料を準備し、配布します。また、昨年度より事務局を担っている「フードバンクふじさわ」の広報資料も作成します。

ホームページでは、わかりやすくタイムリーに藤の活動や情報を紹介します。認定NPO法人として地域に根づいた活動を紹介し、多くの方々と一緒に街づくりを進めることが出来るよう情報共有をします。また、メールマガジンの内容も充実させ、閲覧者数を増やします。様々な媒体を通し、ぐるーぷ藤の街づくりを広報していきます。

4. 研修プロジェクト

ご利用者のニーズを的確に把握し柔軟に対応するためには、メンバー一人ひとりに高度なスキルが要求されます。また、日々の業務の中で各メンバーが目標に向かって自己実現を図ることが藤全体の介護の質を高めていくと考え、今年度も『理念と意思の共有』『スキルアップ』『新しい介護』を学びの3本柱として研修プロジェクトを引き続き設置します。

今年度も感染症対策に充分配慮して実施できるようリモート研修等検討していきます。これまで行ってきた様々な研修に加え三番館開設に向けて、認知症や障害のグループホームに関する新たな研修を計画します。

メンバーのニーズ及び地域社会の情勢に合わせて介護技術や幅広い知識の習

得を目的に、研修計画を策定するとともに、キャリアパスに対応した体系的・継続的な研修を組み立てていきます。

5. 安全衛生委員会

産業医の協力を得ながら、保健師や看護師を中心に適宜検討し、事業所の職場環境および会員の健康保持について情報の共有化を図ります。

コロナ感染が拡大している中、安全安心を確保するため、変異株であっても個人の基本的な感染症予防策として従来と同様に、三つの密の回避、マスク着用、手洗いなど引き続き危機感、緊張感を持ち対応していきます。

まるだいでは、ヨガ、太極拳など腰痛予防も兼ねたミニデイを実施していますが、介護従事者のため腰痛予防体操を各部門と連携をとり実行できるよう努めます。また「心の相談」窓口として公的機関の他に、三重大学教授竹内佐智恵先生の協力をいただき、会員が直接相談できるよう更なる周知に努めます。熱中症、食中毒、感染症の予防に力を入れるとともに、「ストレスチェック」実施結果を生かしメンタルヘルスの不調を未然に防止するよう関係者と充分話し合います。

6. 防災委員会

ぐる一ぶ藤全体で防災対策の整備と取り組みを企画検討する目的で、各部門からの代表者を構成員として防災委員会を設置します。

一番館・二番館合同訓練では新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症対策を取り入れた防災訓練を行います。またリスト化された防災用品・備蓄食料の在庫管理を行ない、計画的に更新します。課題であったBCPは感染症と自然災害の二種類を作成するよう再検討します。

一番館・二番館ともに地域の防災拠点としての役割を担うと共に、ぐる一ぶ藤全体で、過去の大規模災害等の教訓を生かし災害についての知識を身につけ、防災意識の向上に努めます。

7. 居住支援チーム 住まいる[▲]藤

ぐる一ぶ藤総体の協力を得て指定居住支援法人の活動を進めます。

住宅確保要配慮者への住まい探しからマッチング、契約、その後の安否確認を行うために、様々な知識や社会資源を活用します。また転居のための引越しの手伝いや継続支援の訪問に、法人内で組織された『100人の住まいる隊』の活動をさらに充実していきます。いろいろな事情を抱えた方からの依頼に出来る限り寄り添って、安定した住まいを探せるように支援します。

今年度はZ o o mによる研修に多く参加して情報を共有し、今後の活動に役立てていきます。また、居住支援について広報誌「花どけい」やホームページ

等を駆使して、不動産店や大家さんとの相互理解を深め、新たな協力不動産店を増やしていきます。市役所関係各課や他の居住支援法人とも連携し、藤沢市居住支援協議会の活動を定着させ、安心して住める街づくりを進めます。

8. 三番館建設委員会

一番館・二番館の運営から見えてきたニーズに対応するために、2023年開所をめざし、障害者グループホーム（9名）、認知症対応型共同生活介護施設（2ユニット18名）、居場所の建設に着手します。藤沢市をはじめ関係各所と連携を図り建設に伴う様々な手続きや、補助金申請など行います。建設に際しては周辺地域にお住まいの方には安心安全な工事になるように配慮します。認知症対応型共同生活介護施設ではご本人、ご家族が、「ここに入居してよかった。」と感じられるような施設をめざします。障がい者グループホームでは、身体介護が必要になったときにケアを受けやすいバリアフリーな環境を考えていきます。居場所では地域の交流の場となるように集まりやすく子育て応援のできる空間づくりも目指します。一番館・二番館と同様に地域の福祉の拠点として、皆と繋がりながら自分らしくいきいきと暮らせる場や、多様なメンバーがお互いに助け合って働く場を作り出す事も目的とし進めていきます。

9. 外部活動

幼児教室どんぐり園、コンフォール藤沢自治会、柄沢町内会、ボランティアすみれ及び他団体と連携しながら地域に根ざした活動を行います。今年度も地道な活動をするNPOや地域の団体・行事等に「まちづくり対策費」を活用しそれぞれの活動を支援します。

諸団体での役割は以下の通りです。

- ・ 認定NPO法人市民福祉団体全国協議会 代表理事
- ・ 一般社団法人市民福祉支援協議会 代表理事
- ・ 民間介護事業推進委員会 委員
- ・ 藤沢市住まいと暮らし連絡会 委員
- ・ 藤沢市精神障がい者地域生活支援連絡会 委員
- ・ ふじさわ福祉NPO法人連絡会 代表
- ・ 藤沢市相談支援連絡会 委員
- ・ フードバンクふじさわ 運営委員
- ・ 藤沢市居住支援協議会 副代表

介護保険はじめ福祉に関して市民の立場に立った提案をしていきます。さらに各種講師等の機会を通して、ぐるーぷ藤の活動を広く紹介するとともに啓発活動を行います。

Ⅱ. 事業内容

1) 特定非営利活動に係る事業

(1) 家事、介護、育児等に関する生活支援サービスおよび相談事業

●本来事業

- ① 内 容：高齢者、障がい者などの介護、家事援助および産後、育児等の生活支援および相談
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢市およびその近接地域
- ④ 従事者人員：50名
- ⑤ 対 象 者：40名
- ⑥ 事 業 費：¥1,104,000

(2) 地域福祉の向上に向けた学習および研修、啓発を図る事業

●介護講座等

- ① 内 容：介護講座
- ② 日 時：6月、7月、11月
- ③ 場 所：ぐる一ふ藤一番館・藤が岡、ヨロシク♪まるだい
- ④ 従事者人員：15名
- ⑤ 対 象 者：藤会員およびさわ会員、地域の方
- ⑥ 研 修 費：¥379,000

(3) 介護保険法にもとづく事業

●訪問介護事業

- ① 内 容：介護保険対象者への訪問介護サービスの提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢市域
- ④ 従事者人員：50名
- ⑤ 対 象 者：75名
- ⑥ 事 業 費：¥9,126,450

●通所介護事業

- ① 内 容：介護保険対象者への通所介護サービスの提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢市域
- ④ 従事者人員：17名
- ⑤ 対 象 者：230名
- ⑥ 事 業 費：¥18,932,000

●居宅介護支援事業

- ① 内 容：介護保険対象者への居宅介護支援サービスの提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢市域
- ④ 従事者人員：5名
- ⑤ 対 象 者：100名
- ⑥ 事 業 費：¥7,909,000

●小規模多機能型居宅介護事業

- ① 内 容：介護保険対象者に「通い」を中心として「泊まり」「訪問」を組み合わせたサービスの提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢市域
- ④ 従事者人員：30名
- ⑤ 対 象 者：29名（登録定員）
- ⑥ 事 業 費：¥41,062,000

●看護小規模多機能型居宅介護事業

- ① 内 容：医療依存度の高い介護保険対象者に看護を組み合わせた「通い」を中心として「泊まり」「訪問」「訪問看護」の提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢市域
- ④ 従事者人員：30名
- ⑤ 対 象 者：29名（登録定員）
- ⑥ 事 業 費：¥60,394,000

(4) 高齢者・障がい者等に対する居宅介護支援および施設サービス事業

●高齢者住宅

- ① 内 容：高齢者に終の棲家としての住宅及び生活支援サービス提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢地区
- ④ 従事者人員：30名
- ⑤ 対 象 者：21名
- ⑥ 事 業 費：¥43,700,000

●サービス付き高齢者向け住宅

- ① 内 容：高齢者の居住の安定確保、安心を支えるサービスの提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：村岡地区
- ④ 従事者人員：5名
- ⑤ 対 象 者：50名
- ⑥ 事 業 費：¥12,772,000

●居宅介護サービス事業

- ① 内 容：障がい者総合支援法対象者への訪問介護サービスの提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢市域
- ④ 従事者人員：50名
- ⑤ 対 象 者：65名
- ⑥ 事 業 費：¥11,154,550

●障がい者グループホーム

1. 藤が岡の家

- ① 内 容：障がい者総合支援法対象者へのグループホームの提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢地区
- ④ 従事者人員：5名
- ⑤ 対 象 者：6名
- ⑥ 事 業 費：¥4,334,000

2. 本藤沢の家

- ① 内 容：障がい者総合支援法対象者へのグループホームの提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：善行地区
- ④ 従事者人員：7名
- ⑤ 対 象 者：11名
- ⑥ 事 業 費：¥13,035,000

●障がい者相談支援事業

- ① 内 容：障がい者総合支援法対象者への相談支援サービスの提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢市域
- ④ 従事者人員：5名
- ⑤ 対 象 者：50名
- ⑥ 事 業 費：¥5,173,000

(5) 安心して住める地域社会の実現に貢献する事業

●地域ささえあいセンター（ヨロシク♪まるだい）

- ① 内 容：1.生活支援コーディネーターが中心になり誰もが気軽に立ち寄れる通いの場を提供し、地域資源等と連携しさまざまなニーズの把握に努める(委託事業)
2.まるだい食堂での食事の提供やミニデイ、介護・医療相談等通いの場の運営(補助金事業)
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢地区
- ④ 従事者人員：20名
- ⑤ 対 象 者：多数
- ⑥ 事 業 費：¥10,816,000

●子どもの生活支援事業（こども♪まるだい）

- ① 内 容：子供の生活支援事業
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢地区
- ④ 従事者人員：10名
- ⑤ 対 象 者：25名

⑥ 事業費：¥3,909,000

●居住支援事業（住まいる[▲]藤）

- ① 内容：住宅確保要配慮者への住まい探し、マッチングの後の入居者の生活スタイルに最適な居住継続支援
- ② 日時：通年
- ③ 場所：藤沢市域
- ④ 従事者人員：14名
- ⑤ 対象者：92名
- ⑥ 事業費：¥4,239,000

（6）レストラン・厨房事業

●レストランオハナ・厨房事業

- ① 内容：ぐる一ふ藤利用者への食事提供
一番館で働くスタッフおよび一般の方へのレストラン運営
- ② 日時：通年
- ③ 場所：藤沢地区
- ④ 従事者人員：15名
- ⑤ 対象者：多数
- ⑥ 事業費：¥21,153,000

●レストランマハロ・厨房事業

- ① 内容：サ高住にお住まいの方、ぐる一ふ藤 藤の花利用者、
二番館で働くスタッフ、その他近隣の方への食事提供
- ② 日時：通年
- ③ 場所：村岡地区
- ④ 従事者人員：10名
- ⑤ 対象者：80名
- ⑥ 事業費：¥17,734,000

（7）まちづくり活動を行う団体等への支援事業

●まちづくり対策費

- ① 内容：まちづくり活動を行うNPO法人、障がい者団体等や被災地支援活動を行う団体等に対する寄附事業

- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢市域、他被災地等
- ④ 従事者人員：5名
- ⑤ 対 象 者：10～15団体
- ⑥ 事 業 費：¥360,000

(8) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

●総合相談窓口

- ① 内 容：福祉・医療に関する相談業務
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢地区
- ④ 従事者人員：10名
- ⑤ 対 象 者：多数

※各事業費に事業間接費は含まず

2022年度活動予算書（特定非営利活動に係わる事業）

2022年4月1日から2023年3月31日まで

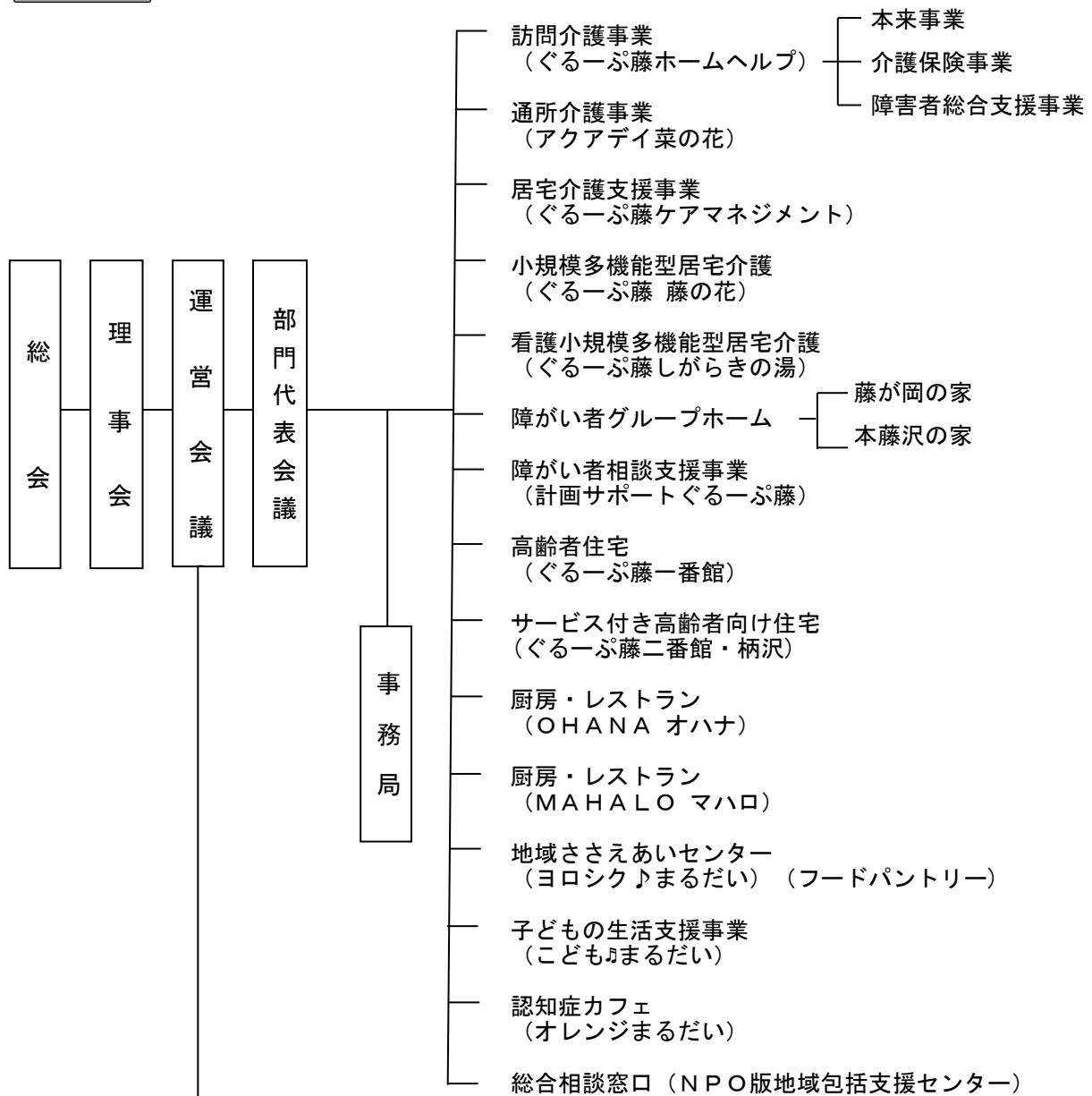
NPO法人ぐるーぷ藤

(単位：円)

科 目	金	額
I 経常収益		
1 受取会費		
藤会員年会費等収入	15,000	
さわ会員年会費等収入	50,000	
賛助会員年会費等収入	15,000	80,000
2 受取寄付金		
寄付金収入		2,000,000
3 受取助成金等		
助成金・補助金収入	7,120,000	
委託金収入	8,848,000	15,968,000
4 事業収益		
事業収入		455,119,000
5 その他収益		
雑収入		3,215,000
経常収益 計		476,382,000
II 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費		
給料手当等	211,572,000	
有償ボランティア	1,888,000	
通勤交通費	3,726,000	
福利厚生費	426,000	
人件費 計	217,612,000	
(2) その他経費		
食材費	15,942,000	
印刷製本書籍費	1,700,000	
会議・研修費	427,000	
旅費交通費	1,583,000	
通信費	3,505,000	
消耗品費	7,207,000	
修繕費	1,150,000	
水道光熱費	12,494,000	
家賃支出	8,790,000	
リース料	7,413,000	
減価償却費	600,000	
生活支援CD事業費	2,066,000	
保険料・管理諸費	5,460,000	
街づくり対策費	360,000	
雑費	598,000	
その他経費 計	69,295,000	
(3) 事業・間接費		
給料手当等	43,141,000	
賞与手当	11,000,000	
法定福利費	30,900,000	
地代支出	4,800,000	
支払利息	18,129,000	
租税公課	9,257,000	
減価償却費	44,000,000	
事業・間接費 計	161,227,000	
事業費 計		448,134,000

2 管理費			
(1) 人件費			
給料手当等	3,728,000		
有償ボランティア	420,000		
退職金	100,000		
通勤交通費	267,000		
福利厚生費	3,965,000		
人件費 計	8,480,000		
(2) その他経費			
印刷製本書籍費	163,000		
会議費	321,000		
旅費交通費	550,000		
販売物品費	1,800,000		
通信費	503,000		
消耗品費	538,000		
修繕費	250,000		
水道光熱費	227,000		
家賃支出	455,000		
リース料	6,439,000		
研修費	379,000		
交際費	100,000		
保険料	1,468,000		
管理諸費	4,376,000		
雑費	700,000		
その他経費 計	18,269,000		
管理費 計		26,749,000	
経常費用 計			474,883,000
当期経常増減額			1,499,000
Ⅲ 経常外収益			
経常外収益 計			0
Ⅳ 経常外費用			
経常外費用 計			0
税引前当期正味財増減額			1,499,000
法人税、住民税及び事業税			70,000
当期正味財産増減額			1,429,000
前期繰越正味財産額			117,162,172
次期繰越正味財産額			118,591,172

2022年度ぐるーぷ藤組織図



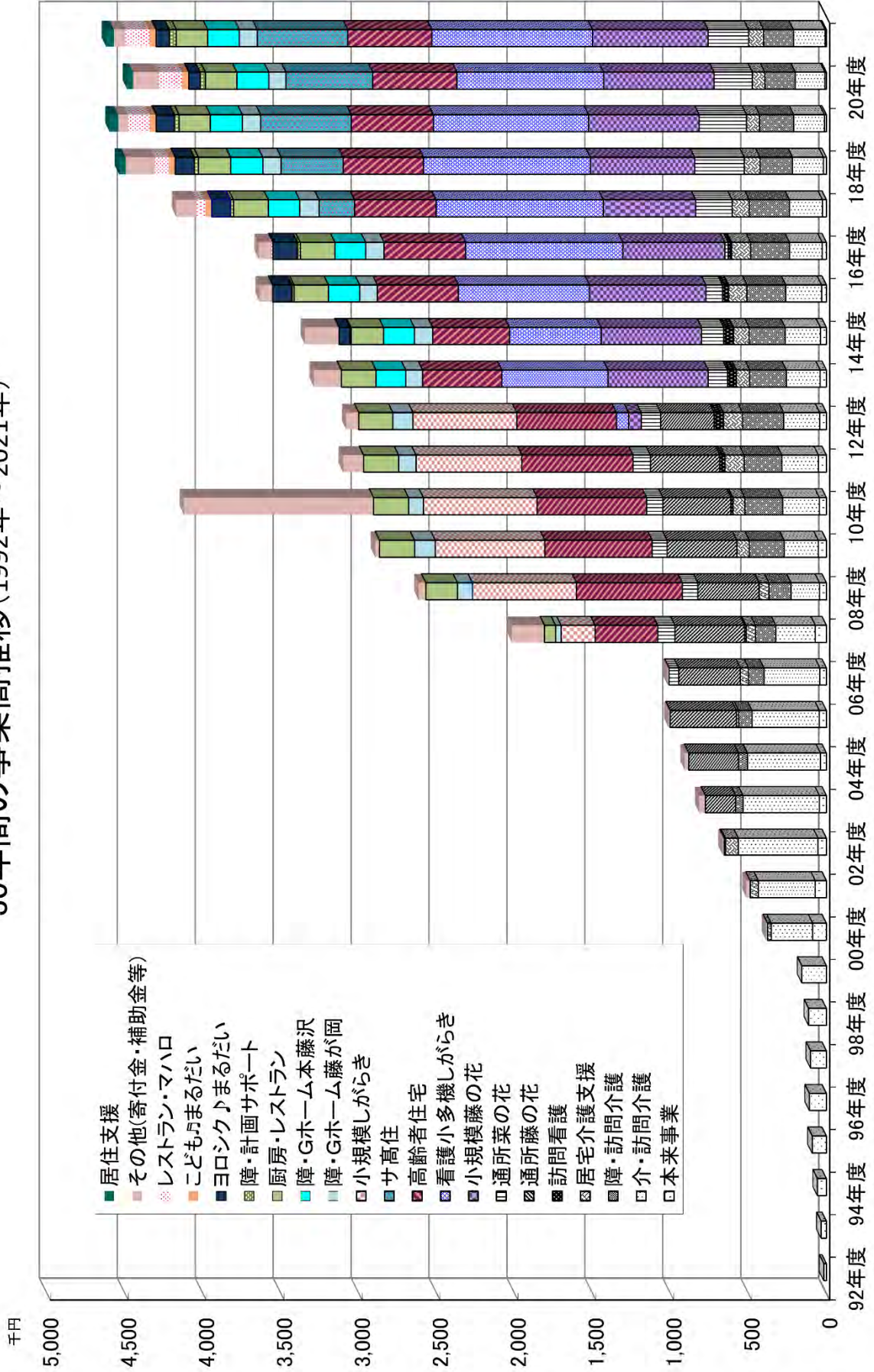
◆メンバー構成◆ 2022.3.31 現在

- 居住支援チーム(住まいる藤)
- 安全衛生委員会
- 研修プロジェクト
- 花どけい編集委員会
- 交流会企画委員会
- 防災委員会
- 三番館建設準備委員会

※ボランティアすみれ

年代	人数	割合
20代	4名	2.5%
30代	3名	1.8%
40代	25名	15.8%
50代	46名	29.0%
60代	44名	27.7%
70代	33名	20.8%
80代	3名	1.8%
90代	1名	0.6%
合計	159名	

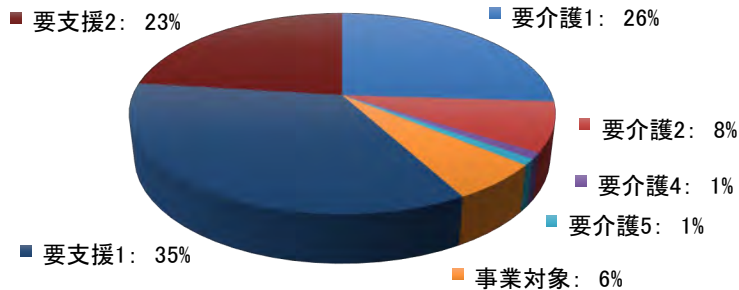
30年間の事業高推移(1992年～2021年)



ご利用者 分布

(2022年3月)

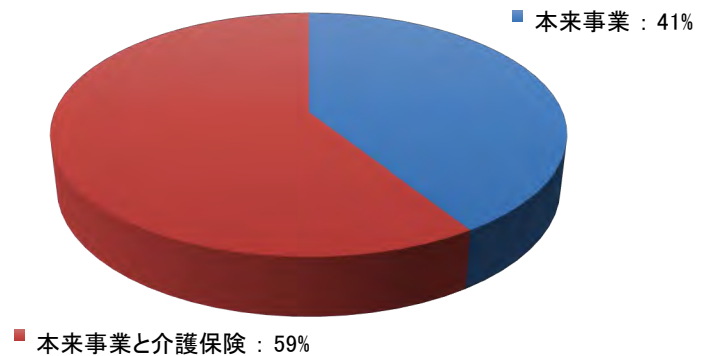
訪問介護(介護保険)



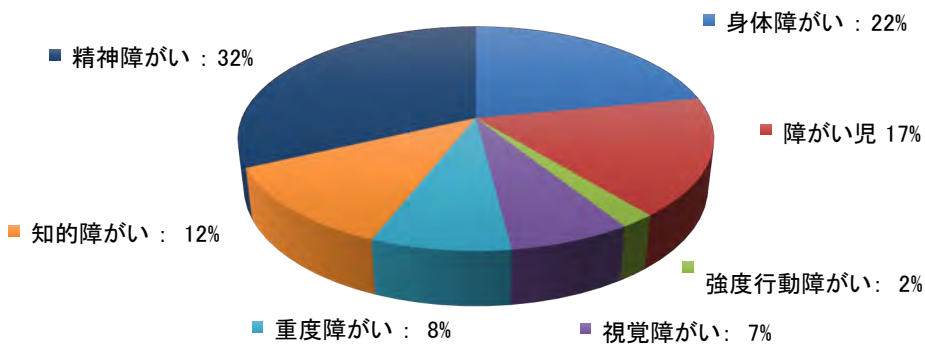
年齢	%
50歳代	1%
60歳代	5%
70歳代	26%
80歳代	42%
90歳代	26%

訪問介護(本来事業)

年齢	%
60歳代	7%
70歳代	20%
80歳代	40%
90歳代	33%



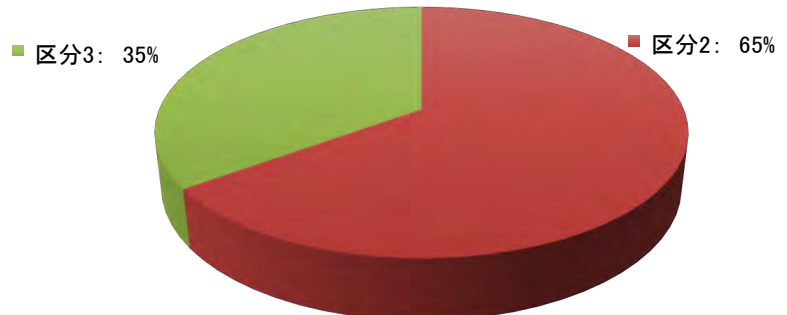
訪問介護(障がい者総合支援)



年齢	%
10歳未満	7%
10歳代	17%
20歳代	10%
30歳代	5%
40歳代	7%
50歳代	24%
60歳代	17%
70歳代	7%
80歳代	3%
90歳代	3%

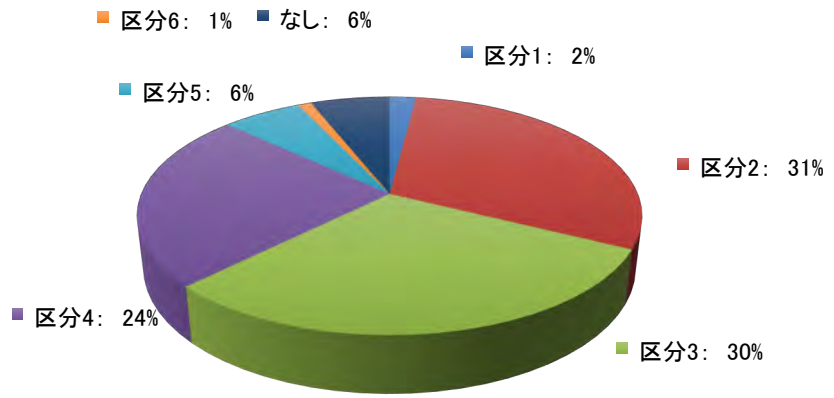
障がい者グループホーム

年齢	%
20歳代	6%
30歳代	18%
40歳代	12%
50歳代	35%
60歳代	29%

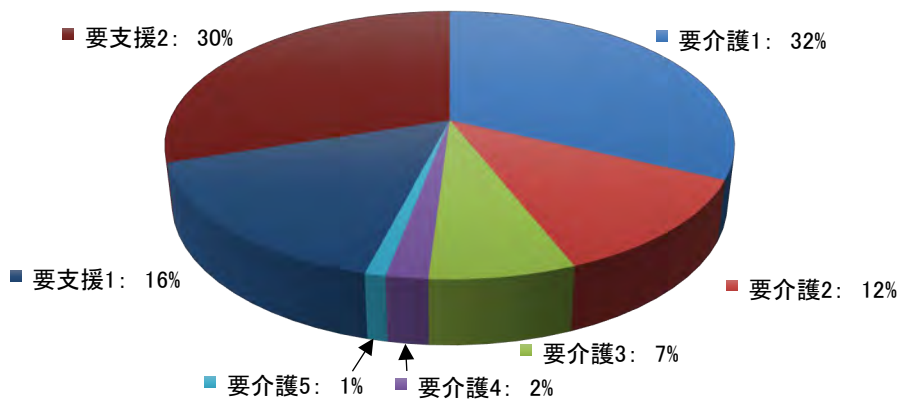


計画サポート

年齢	%
10 歳代	2 %
20 歳代	15 %
30 歳代	24 %
40 歳代	23 %
50 歳代	27 %
60 歳代	18 %



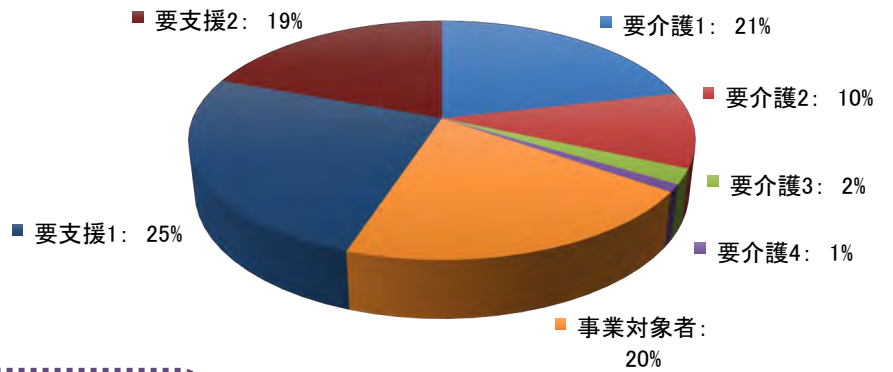
居宅介護支援



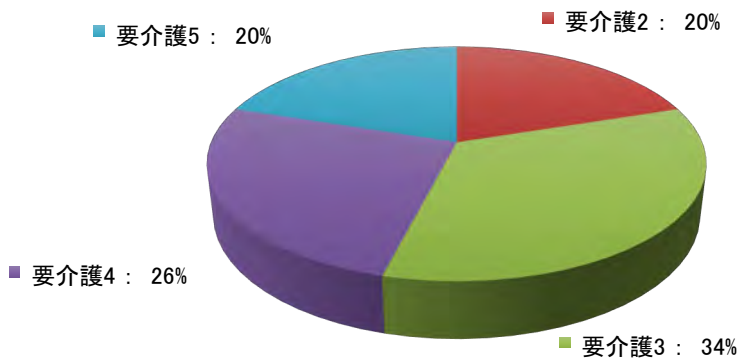
年齢	%
50 歳代	2 %
60 歳代	2 %
70 歳代	15 %
80 歳代	53 %
90 歳代	28 %

通所介護(アクアデイ菜の花)

年齢	%
40 歳代	1 %
60 歳代	2 %
70 歳代	26 %
80 歳代	55 %
90 歳代	15 %



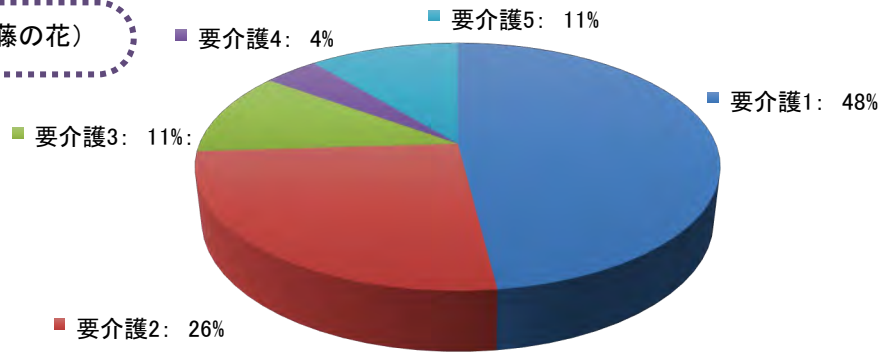
看護小規模多機能型居宅介護(しがらきの湯)



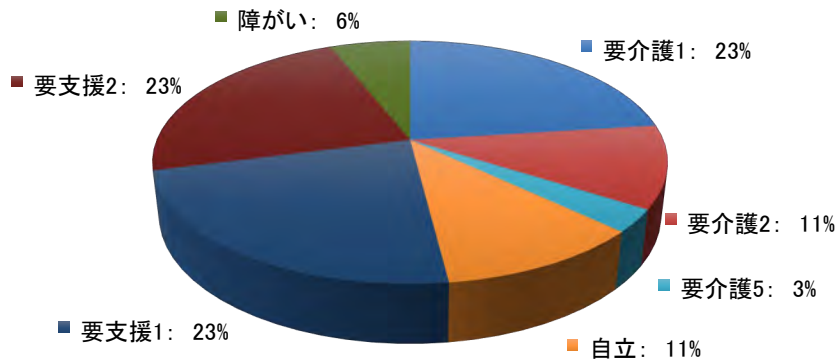
年齢	%
60 歳代	3 %
70 歳代	11 %
80 歳代	51 %
90 歳代	35 %

小規模多機能型居宅介護(藤の花)

年齢	%
60歳代	3%
70歳代	4%
80歳代	63%
90歳代	29%
100歳代	4%



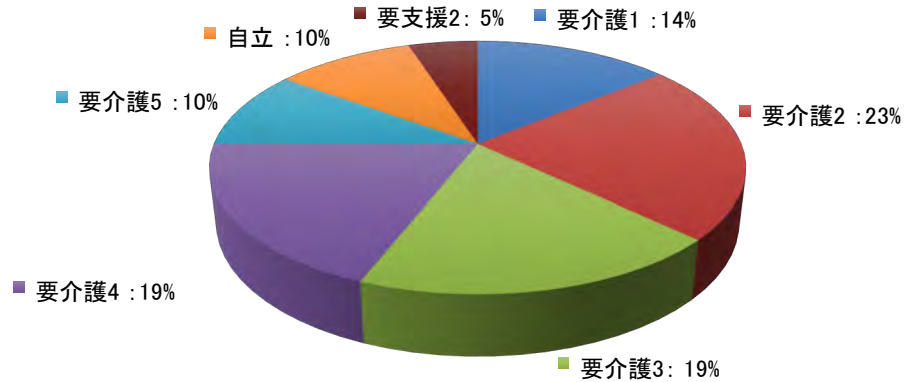
サービス付き高齢者住宅



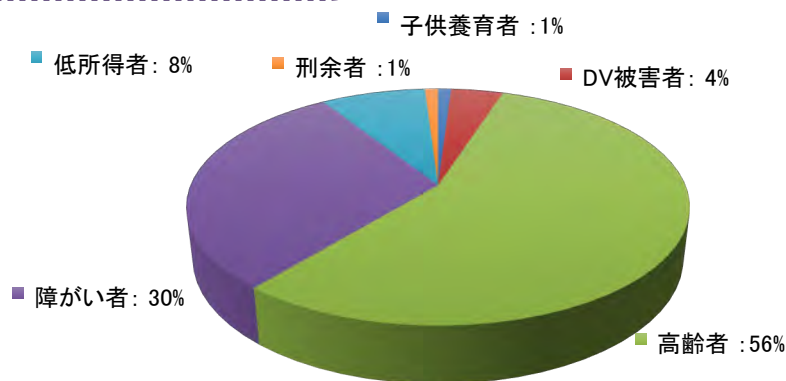
年齢	%
60歳代	6%
70歳代	14%
80歳代	49%
90歳代	31%

高齢者住宅(一番館)

年齢	%
80歳代	48%
90歳代	52%



居住支援法人(住まいる藤)



年齢	%
不明	6%
20歳代	5%
30歳代	10%
40歳代	10%
50歳代	21%
60歳代	9%
70歳代	21%
80歳代	17%
90歳代	1%

2021年度 全体研修・部門別研修

		月 日	名 称	
全体研修・部門外研修	内部研修	5月17日、10月19日	新入会研修	
		8月14日	パワーハラスメント防止について	
		8月14日	せっけん講習会	
		8月21日	竹内先生の介護講座	
		9月11日	長見先生医療講座	
		9月13日～29日(4回)	スキルアップ研修	
		10月9日	法令順守	
		11月13日	就業規則	
		11月15日～11月13日(9回)	理事長と語る会(理念研修)	
		12月17日	管理者研修	
		1月16日	救命救急講習	
		1月29日	綿先生「高齢者及び障がい者の権利を守る」	
		2月8日	ハラスメント研修	
		2月8日	身体拘束廃止委員会研修「グレーゾーンとは」	
		3月12日	個人情報とプライバシー	
	外部研修	6月26日	看取りでの経験を語る会 主催:クローバーホスピタル	
		7月15日	「精神障がい者の居住支援」主催:藤沢市精神障がい地域生活支援連絡会	
		8月4日	コロナ禍における災害対策 主催:神奈川工科大学	
		11月26日	プレホスピタルACP研修会 主催:クローバー医療介護オープンWEBセミナー	
		11月26日	ノロウイルス等感染症研修会 主催:藤沢市保健所	
		1月18日	BCP研修 主催:一社 中部産業連盟	
		1月29日	高齢者及び障がい者の権利を守る 主催:ボランティアすみれ	
	部門別研修	ヘルプ ブム	4月～3月(12回)	ヘルパー会議研修「ケアマニュアルの確認、脳性まひによる車いすでの在宅生活の利用者の支援について」他
		一 番 館	4月～3月(12回)	スタッフ会議研修「事業所理念の共有と目標の作成」他
3月16、18日			高齢者福祉施設等感染予防スタッフ育成研修	
菜 の 花		4月～3月(10回)	スタッフ会議研修「非常災害時の対応」他	
藤 の 花		4月～3月(10回)	スタッフ会議研修「認知症及び認知症ケア」他	
し が ら き の 湯		4月～3月(12回)	スタッフ会議研修「感染症及び食中毒の発生の予防及び蔓延の防止・医療的研修」他	
		4月17日	医療的ケア教員講習会 喀痰吸引教員講習会 主催:NPO法人医療福祉サービス事業者	
		10月13日	ユニ・チャーム排泄研修 主催:ユニ・チャーム	
		10月29日	紙おむつの当て方 主催:光洋	
	12月13日	介護支援専門員多職種連携研修「脳血管障害と後遺症」 主催:藤沢市		
	3月24日	「パーキンソン病」 主催:かわしま神経内科クリニック		

		月 日	名 称
部門別研修	厨房	4月～3月(5回)	厨房部門研修「食中毒の予防について」他
		7月13日	「栄養士は高齢者の職と健康をどう支援するか」主催: CareTEXone横浜21
		8月28日	「高齢者に寄り添う食事」 主催: 神奈川県医師会在宅医療トレーニング
	マハロ	4月～3月(5回)	スタッフ会議研修「HACCP研修」他
	藤が岡の家・本藤沢の家	6月18日	障がいGH職員研修「WITHコロナ時代のGH支援」主催: かながわ福祉サービス振興会
		7月7日	障がいGH職員研修「グループホームの金銭管理」主催: かながわ福祉サービス振興会
		8月5日	「防災について」主催: 藤沢市住まいと暮らし連絡会
		9月2日	「虐待について」 主催: 藤沢市住まいと暮らし連絡会
		11月17日	「グループホームの虐待防止 グレーゾーンについて考える」 主催: かながわ福祉サービス振興会
	部門別研修	計画サポートぐるーぷ藤	4月22日
5月27日			事例検討会 主催: ふじさわ基幹相談支援「えぼめいく」
6月24日			事例検討会 主催: ふじさわ基幹相談支援「えぼめいく」
7月29日			障がいGH研修「アンガーマネジメント」 主催: かながわ福祉サービス振興会
11月20日			意思決定支援研修 主催: 湘南東部ナビゲーションセンター
11月25日			事例検討会 主催: ふじさわ基幹相談支援「えぼめいく」
11月26日			相談支援専門員スキルアップ研修 主催: 湘南東部ナビゲーションセンター
12月10日			相談支援研修「加算について」 主催: 湘南東部ナビゲーションセンター
12月23日			事例検討会 主催: ふじさわ基幹相談支援「えぼめいく」
10月14日			部門研修 見学研修「クラブハウスインユー・就労継続ビバー・グループホームビートル」
1月20日			「いわゆるごみ問題について」 主催: 藤沢市地域共生社会推進室
2月14日			在宅医療トレーニング研修会「精神障がい者との付き合い方」 主催: 神奈川県医師会
2月28日			専門コース別研修・権利擁護「虐待リスクとその対応を考える」 主催: かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク
事務局		4月～3月(12回)	事務局会議研修「PCR検査の確認方法と一斉メール」他
		1月14日	「女性活躍推進法改正について」 主催: 神奈川労働局
		2月17日	「支援補助金について」 主催: 積水ホームテクノ
		3月14日	「育児・介護休業法改正について」 主催: 神奈川労働局
ぐるーぷ藤ケアマネジメント		4月～3月(10回)	ミーティング研修「ケアプラン点検について」他
		5月7日	ケアプラン点検事業に関する研修 主催: いきるケア
		7月28日	ヤングケアラーについて 主催: 鶴沼東包括支援センター
	10月21日	介護支援専門員資質向上研修 主催: 藤沢市介護保険課	
	11月27日	災害支援におけるケアマネに求められる役割 主催: 藤沢市防災安全部	
「住まいる藤」居住支援チーム	7月26日	第1回居住支援部会研修「刑務所出所者刑余者の住まい探しの実態を知り、支援方法を考える」主催: 神奈川県居住支援協議会	
	1月26日	かなこんネット2021年第3回ネットワーク会議「住の支援～困窮しても住まいを失わないために」主催: 神奈川県・かなこんネット共済	

MEMO

年間活動一覧

2021年4月～2022年3月

月	日	内部活動	日	研修、学習	日	外部活動
4月	1	運営会議	17	医療的ケア教員講習会 喀痰吸引教員講習会 主催：NPO法人医療福祉サービス事業者	7	14認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び (一社)市民福祉協議会理事会
	6	部門代表会議	22	事例検討会 主催：ふじさわ基幹相談支援「えぼめいく」	8	藤沢市住まいと暮らし連絡会
	7	しがらきの湯リーダー会議	28	新型コロナウイルス感染症研修	20	藤沢市社会福祉協議会生活支援コーディネーター連絡会
	8	こどもまるだいいこまる会議				
	10	しがらきの湯スタッフ会議				
	10	運営報告会				
	14	ナースミーティング				
	14	ヨロシクまるだいいキッチン会議				
	15	ヨロシクまるだいいコーディネーター会議				
	16	サ高住ミーティング				
	16	事務局会議				
	19	藤の花リーダー会議				
	22	税理士打ち合わせ				
	22	ケアマネミーティング				
	23	藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング				
	27	厨房ミーティング				
	28	一番館・しがらきの湯・藤の花三部門ミーティング				
	29	運営会議				
	30	ホームヘルプミーティング				
	30	30周年記念事業実行委員会				
5月	1	しがらきの湯リーダー会議	7	ケアプラン点検事業に関する研修 主催：いきるケア	6	藤沢市住まいと暮らし連絡会
	4	部門代表会議	17	新人研修	11	第1回藤沢市居住支援協議会
	5	一番館リーダー会議	27	事例検討会 主催：ふじさわ基幹相談支援「えぼめいく」	13	藤沢市個人情報保護制度運営審議会
	7	ナースミーティング			13	認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び (一社)市民福祉協議会理事会
	8	運営報告会				
	8	ホームヘルプケース会議				
	12	ヨロシクまるだいいキッチン会議				
	14	一番館 スタッフ会議				
	17	藤の花リーダー会議				
	17	事務局会議				
	19	厨房ミーティング				
	19	住まいる藤定例会				
	26	一番館・しがらきの湯・藤の花三部門ミーティング				
	27	三番館準備委員会				
	27	ケアマネミーティング				
	28	サ高住ミーティング				
	28	藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング				
	29	通常総会				
	29	第1回理事会				
6月	1	ヨロシクまるだいい生活支援コーディネーター会議	18	障がい者GH職員研修「withコロナ時代のGH支援」 主催：かながわ福祉サービス振興会	3	藤沢市住まいと暮らし連絡会
	2	ホームヘルプミーティング	24	事例検討会 主催：ふじさわ基幹相談支援「えぼめいく」	6	三番館近隣説明会
	3	運営会議	26	看取りでの経験を語る会 主催：クローバーホスピタル	10	藤沢市個人情報保護制度運営審議会
	7	一番館リーダー会議			16	藤沢市社会福祉協議会生活支援コーディネーター連絡会
	9	しがらきの湯リーダー会議			16	23,30認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び (一社)市民福祉協議会理事会
	9	ナースミーティング				
	10	ヨロシクまるだいいキッチン会議				
	12	運営報告会				
	12	一番館スタッフ会議				
	12	しがらきの湯スタッフ会議				
	16	菜の花スタッフ会議				
	17	計画サポートミーティング				
	21	藤の花リーダー会議				
	21	事務局会議				
	22	第2回理事会				
	23	厨房ミーティング				
	23	一番館・しがらきの湯・藤の花三部門ミーティング				
	24	ケアマネミーティング				
	24	税理士打ち合わせ				
	25	サ高住ミーティング				
	25	藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング				
7月	1	運営会議	7	障がい者GH職員研修「グループホームの金銭管理」 主催：かながわ福祉サービス振興会	1	2,6,13,15,16,20,28フードバンク
	5	一番館リーダー会議	13	「栄養士は高齢者の職と健康をどう支援するか」主催：CareTEXone横浜21	7	14,21,27認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び (一社)市民福祉協議会理事会
	5	ホームヘルプミーティング	15	「精神障がい者の居住支援」主催：藤沢市精神障がい地域生活支援連絡会	8	藤沢市個人情報保護制度運営審議会
	8	部門代表会議	26	第1回居住支援部会研修「刑務所出所者刑余者の住まい探しの実態を知り、 支援方法を考える主催：神奈川県居住支援協議会	10	藤沢市地域密着型サービス事業者選定委員会
	8	一番館 スタッフ会議	28	ヤングケアラーについて 主催：鶴沼東包括支援センター	19	第2回藤沢市居住支援協議会
	10	運営報告会	28	介護ソフト研修	20	藤沢市社会福祉協議会生活支援コーディネーター連絡会
	13	ヨロシクまるだいいコーディネーター会議	29	障がい者GH職員研修「アンガーマネジメント」 主催：かながわ福祉サービス振興会		
	14	まるだいいキッチン会議				
	15	住まいる藤 定例会				
	19	事務局会議				
	19	藤の花リーダー会議				
	19	事務局会議				
	22	ケアマネミーティング				
	23	藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング				
	23	税理士打ち合わせ				
	26	サ高住駆け付け隊ミーティング				
	27	厨房ミーティング				
	28	一番館・しがらきの湯・藤の花三部門ミーティング				
8月	4	しがらきの湯リーダー会議	4	コロナ禍における災害対策 主催：神奈川工科大学	5	藤沢市住まいと暮らし連絡会
	4	ナースミーティング	5	「防災について」主催：藤沢市住まいと暮らし連絡会	5	6,11,13,16,17,19,20,24,31 フードバンク
	4	ホームヘルプミーティング	8	感染対策セミナー 主催：積水ホームテクノ	12	藤沢市個人情報保護審議会
	5	運営会議	14	パワーハラスメント防止について	17	藤沢市社会福祉協議会生活支援コーディネーター連絡会
	9	一番館リーダー会議	14	せつけん講習会 主催：研修PJ	18	25 認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び (一社)市民福祉協議会理事会
	10	部門代表会議	19	勤怠ソフト研修	31	九州大学Zoom研修講師
	14	運営報告会	21	竹内先生の介護講座 主催：研修PJ		
	16	藤の花リーダー会議	28	「高齢者に寄り添う食事」 主催：神奈川県医師会在宅医療トレーニング		
	16	事務局会議				
	18	菜の花 スタッフ会議				
	24	安全衛生委員会				
	25	一番館・しがらきの湯・藤の花三部門ミーティング				
	26	ケアマネミーティング				
	27	サ高住ミーティング				
	27	藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング				
	31	税理士打ち合わせ				
9月	1	ホームヘルプミーティング	2	「虐待について」主催：藤沢市住まいと暮らし連絡会	9	藤沢市個人情報保護制度運営審議会
	2	運営会議	11	長見先生医療講座 主催：研修PJ	15	認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び (一社)市民福祉協議会理事会
	8	しがらきの湯リーダー会議	13	スキルアップ研修「車椅子の取扱い、安全点検と移乗移動」主催：研修PJ	21	藤沢市社会福祉協議会生活支援コーディネーター連絡会
	9	計画サポートミーティング	21	スキルアップ研修「あいさつ：声の掛け方・意向確認・自立支援の観点」 主催：研修PJ		
	10	ナースミーティング	24	スキルアップ研修「排泄介助」主催：研修PJ		
	10	三番館建設準備委員会	29	スキルアップ研修「行為介助」主催：研修PJ		
	11	運営報告会				
	14	ヨロシクまるだいいコーディネーター会議				
	15	菜の花スタッフ会議				
	17	住まいる藤 住まいる隊ミーティング				
	20	藤の花リーダー会議				
	21	事務局会議				
	22	厨房ミーティング				
	22	一番館・しがらきの湯・藤の花三部門ミーティング				
	23	ケアマネミーティング				
	24	税理士打ち合わせ				
	24	サ高住ミーティング				
	24	藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング				
	28	第3回理事会				
	29	ホームヘルプミーティング				
	30	運営会議				

月	日	内部活動	日	研修、学習	日	外部活動
10月	5	身体拘束廃止委員会	9	法令順守 主催：研修PJ	6	13、20認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び (一社)市民福祉協議会理事会
	5	部門代表会議	13	ユニ・チャーム排泄研修 主催：ユニ・チャーム	14	藤沢市個人情報保護審議会
	6	しがらきの湯リーダー会議	14	見学研修「クラブハウスインユー・就労継続ビバー ・グループホームビートル」	19	藤沢市社会福祉協議会生活支援コーディネーター連絡会
	8	ナースミーティング	19	新入会研修 主催：研修PJ	19	フードパントリー連絡会
	8	一番館リーダー会議	21	介護支援専門員資質向上研修 主催：藤沢市介護保険課	25	第3回藤沢市居住支援協議会
	8	しがらきの湯スタッフ会議	26	勸怠ソフト研修		
	9	一番館 スタッフ会議	29	紙おむつの当て方 主催：光洋		
	9	運営報告会				
	12	ヨロシクまるだいコーディネーター会議				
	27	30周年記念事業実行委員会				
	13	計画サポートミーティング				
	14	藤の花リーダー会議				
	18	事務局会議				
	19	防災委員会				
	20	アクアデイ菜の花 スタッフ会議				
	20	ヨロシクまるだいキッチン会議				
	20	厨房ミーティング				
	21	藤の花・しがらきの湯合同運営推進会議				
	21	マハロ会議				
	22	サ高住ミーティング				
	22	藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング				
	26	藤の花スタッフ会議				
	27	住まいる藤定例会				
	27	一番館・しがらきの湯・藤の花三部門ミーティング				
	28	ケアマネミーティング				
	28	税理士打ち合わせ				
11月	3	ホームヘルプミーティング	13	就業規則 主催：研修PJ	16	藤沢市社会福祉協議会生活支援コーディネーター連絡会
	4	運営会議	15	理事長と語る会 主催：研修PJ	16	フードパントリー連絡会
	8	しがらきの湯リーダー会議	17	理事長と語る会 主催：研修PJ	18	藤沢市精神障がい地域生活支援連絡
	8	一番館リーダー会議	17	「グループホームの虐待防止 グレーゾーンについて考える」 主催：かながわ福祉サービス振興会	19	第4回藤沢市居住支援協議会
	9	部門代表会議	20	意思決定支援研修 主催：湘南東部ナビゲーションセンター		
	9	ヨロシクまるだいコーディネーター会議	23	理事長と語る会 主催：研修PJ		
	10	30周年記念事業実行委員会	25	理事長と語る会 主催：研修PJ		
	10	アクアデイ菜の花 スタッフ会議	25	ケアマネ研修 「施設見学」		
	11	計画サポートミーティング	25	事例検討会 主催：ふじさわ基幹相談支援「えぼめいく」		
	11	ナースミーティング	26	プレホスピタルACP研修会 主催：クローバー医療介護オープンWEBセミナー		
	12	一番館 スタッフ会議	26	ノロウイルス等感染症研修会		
	12	しがらきの湯スタッフ会議	26	相談支援専門員スキルアップ研修 主催：湘南東部ナビゲーションセンター		
	12	運営報告会	27	災害支援におけるケアマネに求められる役割 主催：藤沢市防災安全部		
	13	ホームヘルプケース会議	29	理事長と語る会 主催：研修PJ		
	20	事務局会議	30	理事長と語る会 主催：研修PJ		
	22	藤の花リーダー会議				
	23	防災委員会				
	24	一番館・しがらきの湯・藤の花三部門ミーティング				
	24	厨房・マハロミーティング				
	25	ケアマネミーティング				
	26	住まいる藤定例会				
	26	税理士打ち合わせ				
	26	サ高住ミーティング				
	26	藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング				
	26	藤の花スタッフ会議				
12月	1	ホームヘルプミーティング	3	理事長と語る会 主催：研修PJ	19、15、22	認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び (一社)市民福祉協議会理事会
	2	運営会議	10	理事長と語る会 主催：研修PJ	9	藤沢市住まいと暮らし連絡会
	6	しがらきの湯リーダー会議	10	相談支援研修「加算について」 主催：湘南東部ナビゲーションセンター	13	藤沢市居住支援協議会主催「住まい探し相談会」
	7	部門代表会議	13	理事長と語る会 主催：研修PJ	21	藤沢市社会福祉協議会生活支援コーディネーター連絡会
	7	防災委員会	13	介護支援専門員多職種連携研修「脳血管障害と後遺症」 主催：藤沢市		
	8	ヨロシクまるだい キッチン会議	17	管理者研修 主催：研修PJ		
	9	計画サポートミーティング	23	事例検討会 主催：ふじさわ基幹相談支援「えぼめいく」		
	10	藤の花リーダー会議				
	11	ホームヘルプケース会議				
	11	一番館 スタッフ会議				
	11	運営報告会				
	14	ヨロシクまるだいコーディネーター会議				
	15	藤の花スタッフ会議				
	15	厨房会議				
	16	藤の花・しがらきの湯合同運営推進会議				
	17	税理士打ち合わせ				
	20	事務局会議				
	21	第4回理事会				
	22	厨房ミーティング				
	22	一番館・しがらきの湯・藤の花三部門ミーティング				
	22	ホームヘルプミーティング				
	23	ケアマネミーティング				
	23	藤の花スタッフ会議				
	24	サ高住ミーティング				
	26	藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング				
	28	運営会議				
1月	4	部門代表会議	14	「女性活躍推進法改正について」 主催：神奈川労働局	6	12、19、26 認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び (一社)市民福祉協議会理事会
	8	運営報告会	16	救命救急講習 主催：研修PJ	12	藤沢市住まいと暮らし連絡会
	10	しがらきの湯リーダー会議	18	BCP研修 主催：一社 中部産業連盟	18	藤沢市社会福祉協議会生活支援コーディネーター連絡会
	10	一番館リーダー会議	20	「いわゆるごみ問題について」 主催：藤沢市地域共生社会推進室	21	第5回藤沢市居住支援協議会
	10	計画サポートミーティング	26	かなこネット2021年第3回ネットワーク会議「住の支援～困窮しても 住まいを失わないために」 主催：神奈川県・かなこネット共済		
	13	ナースミーティング	29	綿先生「高齢者及び障がいの者の権利を守る」 主催：ボランティアすみれ		
	14	しがらきの湯スタッフ会議				
	14	一番館 スタッフ会議				
	14	研修プロジェクト会議				
	17	藤の花リーダー会議				
	19	アクアデイ菜の花 スタッフ会議				
	20	藤の花スタッフ会議				
	24	事務局会議				
	26	厨房ミーティング				
	26	一番館・しがらきの湯・藤の花三部門ミーティング				
	27	ケアマネミーティング				
	27	サ高住ミーティング				
	28	藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング				
	31	税理士打ち合わせ				
2月	1	運営会議	8	ハラスメント研修 主催：研修PJ	3	10、16認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び (一社)市民福祉協議会理事会
	2	一番館リーダー会議	8	「グレーゾーンとは」 主催：身体拘束廃止委員会	8	藤沢市社会福祉協議会生活支援コーディネーター連絡会
	3	ホームヘルプミーティング	14	在宅医療トレーニング研修会「精神障がい者との付き合い方」 主催：神奈川県医師会	10	藤沢市住まいと暮らし連絡会
	8	ヨロシクまるだいコーディネーター会議	17	「支援補助金について」 主催：積水ホームテクノ		
	10	計画サポートミーティング	28	専門コース別研修・権利擁護「虐待リスクとその対応を考える」 主催：かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク		
	12	運営報告会				
	12	ホームヘルプケース会議				
	16	住まいる隊ミーティング				
	16	アクアデイ菜の花 スタッフ会議				
	21	藤の花リーダー会議				
	21	事務局会議				
	23	厨房ミーティング				
	23	一番館・しがらきの湯・藤の花三部門ミーティング				
	24	ケアマネミーティング				
	25	税理士打ち合わせ				
	25	サ高住ミーティング				
	28	藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング				
3月	1	運営会議	12	「個人情報とプライバシー」 主催：研修PJ	2	10、16、24認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び (一社)市民福祉協議会理事会及び(一社)全国介護事業者協議会
	2	ホームヘルプミーティング	14	「育児・介護休業法改正について」 主催：神奈川労働局	5	30周年記念式典
	7	一番館リーダー会議	18	高齢者福祉施設等感染予防スタッフ育成研修	15	藤沢市社会福祉協議会生活支援コーディネーター連絡会
	7	しがらきの湯リーダー会議	24	「パーキンソン病」 主催：かわしま神経内科クリニック		
	8	ヨロシクまるだい コーディネーター会議				
	10	計画サポートミーティング				
	11	ナースミーティング				
	11	しがらきの湯スタッフ会議				
	12	運営報告会				
	13	交流会企画委員会				
	16	アクアデイ菜の花 スタッフ会議				
	21	藤の花リーダー会議				
	22	第5回理事会				
	23	一番館・しがらきの湯・藤の花三部門ミーティング				
	23	厨房ミーティング				
	23	サ高住ミーティング				
	25	藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング				
	25	事務局会議				
	28	税理士打ち合わせ				
	30	ホームヘルプミーティング				
	31	藤の花スタッフ会議				
	31	住まいる隊ミーティング				

月	日	内 部 活 動	日	研 修、学 習	日	外 部 活 動

提 案 者

理 事 長	佐藤 律子
会 長	鷺尾 公子
常務理事	笹原 美恵子
理 事	川島 進
理 事	木村 和規
理 事	倉持 泰雄
理 事	小林 純二郎
理 事	酒井 清美
理 事	藤井 美和
理 事	松岡 薫
監 事	小野 淑子
監 事	藤澤 抱一



歳をとっても病気になっても
障がいがあっても

いつまでも自分らしく暮らせる街を創りたい

第18回（通算第30回）通常総会議案書

発行日 2022年5月28日

発行者 認定NPO法人ぐるーぷ藤 理事会

住 所 藤沢市藤が岡1-4-2

電 話 0466-26-2001